法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-28

和仏法律学校講義録

松岡, 義正 / 岩田, 一郎 / 志田, 友吉 / 富井, 政章 / 掛下, 重次郎

(出版者 / Publisher)
和佛法律學校
(巻 / Volume)
3-17
(開始ページ / Start Page)
1
(終了ページ / End Page)
55
(発行年 / Year)
1902-07-15

（明治三十四年十一月十四日第三種郵便物認可　每月二回
明治三十五年七月十五日發行）

三十五年度　第三學年

和佛法律學校講義録

第拾七號

和佛法律學校發行

第三學年第十七號目次

民法物權 自第七章至第十章（自九五至一〇〇）　法學博士　富井政章
民法相續（自二七七至二九二）　法律學士　掛下重次郎
商法手形（自一九七至二二〇）　法學士　志田友吉
破産法（自四九至五六）　法學士　松岡義正
民事訴訟法 自第三編至第五編（完）（自一四九至一八三）表紙及ヒ目次六頁　法學士　岩田一郎
雜報　○他家ニ在ル法定ノ推定家督相續人○山田講師ノ榮典○卒業試驗問題

090
1902
3-1-17

ヲ得ルモノトシタ、而シテ之ニハ四箇ノ要件ガ具ハラチバナラヌ

第一　正當ノ理由アル場合ニ限ルコト　即チ例ヘバ今申シタ如ク或事情ヨリシテ時價ニ賣レル見込ナイ場合ノ如キヲ謂フ

第二　鑑定人ノ評價ニ從フコト

第三　裁判所ニ請求スルコト

第四　豫メ債務者ニ其請求ヲ通知スルコト（第三五四條）

右ハ全ク特別ノ實行方法デアルニ由ッテ此ノ如クニ種種ノ方面ヨリ此適用ヲ制限シタノデアリマス

質權ニハ占有ヲ必要トスルニ由ッテ同時ニ二箇以上ノ質權ガ一ノ動産上ニ存スルコト能ハザル如クニ解セラレマスガ、既ニ代理占有ヲ認ムル以上ハ此事實ノ生ジ得ルコトヲモ認メチバナラヌ、例ヘバ茲ニ一タビ甲ナル者ノ爲メニ質入シタ物ヲ更ニ乙ナル者ノ爲メニ質入シテ其中ノ一人又ハ丙ナル者ガ雙方ノ代理人ト爲ッテ之ヲ占有スル場合ハ明カニ生ジ得ルコトデアリマス、而シテ是ハ債務者ノ爲メニ甚ダ必要ナルコトデアル、何トナレバ凡ソ擔保ニ供スベキモノハ通

090
1902
3-1-17

ヲ得ルモノトシタ、而シテ之ニハ四箇ノ要件ガ具ハラ子バナラヌ
第一　正當ノ理由アル場合ニ限ルコト　即チ例ヘバ今申シタ如ク或事情ヨリシテ時價ニ賣レル見込ナイ場合ノ如キヲ謂フ
第二　鑑定人ノ評價ニ從フコト
第三　裁判所ニ請求スルコト
第四　豫メ債務者ニ其請求ヲ通知スルコト(第三五四條)
右ハ全ク特別ノ實行方法デアルニ由ッテ此ノ如クニ種種ノ方面ヨリ此適用ヲ制限シタノデアリマス
質權ニハ占有ヲ必要トスルニ由ッテ同時ニ二箇以上ノ質權ガ一ノ動產上ニ存スルコト能ハザル如クニ解セラレマスガ、既ニ代理占有ヲ認ムル以上ハ此事實ノ生ジ得ルコトヲモ認メ子バナラヌ、例ヘバ玆ニ一タビ甲ナル者ノ爲メニ質入シタ物ヲ更ニ乙ナル者ノ爲メニ質入シテ其中ノ一人又ハ丙ナル者ガ雙方ノ代理人ト爲ッテ之ヲ占有スル場合ハ明カニ生ジ得ルコトデアリマス、而シテ是ハ債務者ノ爲メニ甚ダ必要ナルコトデアル、何トナレバ凡ソ擔保ニ供スベキモノハ通

第三學年第十七號目次

民法物權 [illegible]　[illegible]
民法相續 [illegible]　[illegible]
商法手形 [illegible]　[illegible]
破產法 [illegible]　[illegible]
民事訴訟法 [illegible]　[illegible]
雜報　○[illegible]

常其擔保スベキ債權額ヨリモ多クノ價格ヲ有スルモノデアル、故ニ質物ノ價額ガ果シテ遠ク債權額ニ超ユル場合ニハ更ニ其物ヲ擔保トシテ資金ヲ借入ルルコトガ出來テバ甚ダ不便デアル、而シテ此目的ハ代理占有ノ作用ニ依ッテ達セラルルコトデアル

此場合ニ二箇以上ノ質權ノ順位ヲ如何ニ定ムベキカト云フニ民法ハ設定ノ前後ニ依ルトシタ(第三五五條)此規定ハ或ハ疑義ノ生ゼンコトヲ慮ッテ設ケラレタモノデアリマス、實ハ分リ切ッタ事柄デアル、即チ一般物權ノ效力タル優先權ノ作用ニ外ナラヌ、其譯ハ何人ト雖モ其有スル以上ノ權利ヲ他人ニ移スコトヲ得ナイ、一タビ或物ノ上ニ物權ヲ設定シタ以上ハ其物權ヲ負擔スル限度ニ於テ所有權ノ內容ハ減殺セラレタモノデアル、其レ故ニ此規定ハ獨逸民法ニ於テハ最初第一草案(第一一五一條)ニ載ッテ居マシタガ確定案ニ於テハ言フヲ竢タヌト云フ理由デ削ラレマシタ

第三節　不動產質

不動產質ハ近世歐洲諸國ニ於テハ殆ド行ハレテ居リマセヌ、唯佛國ヲ始トシテ多少之ト類似スル所アル用益質ヲ認ムル例ハ多クアリマス

用益質トハ債權者カ辨濟ヲ受クルマデ債務者ノ不動產ヲ留置シテ其使用、收益ヲ爲ス權利ヲ謂フ、然ルニ是ハ質權ノ效力ノ一部ニ過ギザルモノデアル、用益質ヲ有スル者ハ決シテ其權利ノ目的物ヲ賣却シテ其代價ニ付イテ優先權ヲ行フコトヲ得ルモノデナイ、即チ此點ニ於テ純然タル質權ト大ニ相異ナルモノデアリマス、此用益質スラモ近世ニ在ッテハ抵當權ノ盛ニ行ハルルニ從ッテ大ニ適用ヲ失フコトト爲リマシタ

是ヨリ簡單ニ不動產質ノ效力ヲ述ベマス

不動產質權者ハ第一ニ其權利ノ目的タル不動產ノ用方ニ從ッテ其使用及ヒ收益ヲ爲スコトヲ得ル(第三五六條)然レドモ此效力ハ不動產質ノ要素ト看ルベキモノデハナイ、當事者ニ於テ反對ノ定ヲ爲スコトヲ許シテアリマス(第三五九條)即チ特約ナキ普通ノ場合ニ生ズル效力デアル、此點モ用益質ト相異ナル所デアル、不動產質ハ質權デアッテ使用、收益ヲ必要條件トスルモノデハナイ

不動産質權者ハ使用、收益ノ權利ヲ有スルニ由ッテ通常果實ヲ以テ支辨スベキ費用ハ之ヲ負擔スベキガ當然デアル、故ニ不動産質權者ハ管理ノ費用ヲ拂ヒ、其他不動産ノ負擔ニ任ズトシテアリマス、例ヘバ租税及ビ修繕費ノ如キハ自己ノ費用ヲ以テ之ヲ支辨セネバナラヌ(第三五七條)又利息ハ元本使用ノ對價ニシテ果實ニ相當スルモノデアル、然ルニ不動産質權者ニシテ既ニ果實ヲ取得スル以上ハ縱令不動産ニ關スル費用ヲ拂フモ尙ホ多少ノ餘剩ヲ生ズルコトガ常デアル、故ニ法律ハ便宜上之ト利息トヲ相殺セシメ、不動産質權者ハ其債權ノ利息ヲ請求スルコトヲ得ザルモノトシテアル(第三五八條)此等ノ規定ハ從來ノ慣習ニ依ッタモノデ強行的效力ヲ有スルモノデハナイ、故ニ設定行爲ニ於テ別段ノ定ヲ爲スコトハ妨ゲザル所デアリマス(第三五九條)

不動産質ハ動産質ニ同ジク其成立ニハ占有ノ移轉ヲ必要トスルモノデアルガ、一旦成立シタル後ニ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルニハ必ズシモ其占有ヲ繼續スルコトヲ要セヌ何トナレバ不動産質ニハ登記ト云フ比較的完全ナル公示方法ガアッテ之ニ依ッテ第三者ニ不測ノ損害ヲ被ラシメザルコトヲ得ルガ故デアル

不動産質ニ於ケル登記ハ曩ニ説明シタル動産質ニ於ケル繼續セル占有ト同一ノ作用ヲ爲スモノデアル、第三者ニ對抗スルコトヲ得ザル權利ハ物權ニシテ物權ノ實用ヲ爲サヌ、殆ド成立セザルニ等シキ結果ト爲ルニ由ッテ第三者ニ對抗スル要件ハ最モ大切ナルモノデアリマス

此ノ如ク占有ハ不動産質ノ存立ニハ必要デハナイガ、實際ノコトヲ言ヘバ不動産質權者ガ占有ヲ爲サザル場合ハ殆ドナイト思フ、何トナレバ不動産質ノ要素デハナイガ使用、收益ノ二ハ不動産質權者ニ取ッテ最モ大切ナ權利デアル、此權利ノ附隨セザル不動産質ヲ取得スル如キコトハ實際決シテナイト思フ、而シテ使用、收益ヲ爲スニハ自ラ占有ガ必要デアルコトハ言フヲ竢タヌコトデアリマス』

民法ニハ不動産質ノ存續期間ヲ十年以下ト定メテアル、此期間ヲ超ユルトキハ十年ニ短縮セラルルコトト爲ル、但契約ヲ以テ此期間ヲ更新スルコトヲ妨ゲヌ、唯更新ノ時ヨリ十年ヲ越ユルコトヲ得ナイ(第三六〇條)

此規定ハ公益上ヨリ設ケラレタ強行的ノモノデアル、永小作權及ビ賃借權ニ付イテモ同一樣ノ規定ガアリマス、其理由ハ長期ニ亘ル不動産質ヲ有效トスレバ

財産ノ流通及ビ改良ヲ妨ゲ且其價格ヲ減損スルニ至ルコトハ明カデアリマス、故ニ經濟上ノ必要ヨリシテ此ノ如クニ期間ヲ限定シタモノデアル、十年ニ定メラレタコトニ付イテハ別ニ確タル根據アル譯デハナイ、最モ汎ク行ハルル所ノ慣習ニ參酌シ雙方ノ便利ト公益トヲ折衷シテ適當ト認ムル所ニ定メタルニ過ギヌ故ニ十年以上ノ債權ニ付キ其發生ト同時ニ不動産質ヲ設定スルモ其期間内ニ更新ヲ爲サザル限ハ使用、收益ノ外ニ殆ド實益ナキモノト解セネバナラヌ、一日ト雖モ十年ヲ經過シタル後ハ其質權ハ既ニ消滅シタルモノナルガ故ニ之ヲ實行スルコトヲ得ザルハ無論ノコトデアルト思フ

不動産質ハ右ニ述ベタル如ク使用及ビ收益ノ權ヲ生ズル如キ抵當權ニ見ザル效力ヲ生ズルモノデアル、然レドモ此等二三ノ點ヲ除ク外ハ抵當權ト效力ヲ異ニスルノデハナイ、故ニ本節中別段ノ定アルモノヲ除ク外ハ抵當權ノ規定ヲ準用スルコトト爲ッテ居マス(第三六一條)例ヘバ第三取得者ニ對スル效力ハ登記ノ順序ニ依ルコトノ如キ(第三七三條)又滌除ニ關スル規定ガ行ハルルコトノ如キ(第三七八條以下)ハ其一例デアリマス

人アラハ此期間内ニ其權利ヲ主張スヘキ旨ヲ公告スルコトト爲セリ而シテ此公告ハ亦間接ニ相續債權者ノ利益ヲ保護スルモノト謂フヘシ何トナレハ債權者ハ相續財産カ國庫ニ歸屬スルマテハ殘餘財産ニ付キ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘキカ故ニ前條ノ期間ニ後レタリトモ此公告ヲ知リテ本條ノ期間内ニ請求ヲ爲ストキハ辨濟ヲ受クルコトアルヘケレハナリ

○相續財産ノ國庫歸屬＝第千五十九條　前條ノ期間内ニ相續人タル權利ヲ主張スル者ナキトキハ相續財産ハ國庫ニ歸屬ス此場合ニ於テハ第千五十六條第二項ノ規定ヲ準用ス

相續債權者及ヒ受遺者ハ國庫ニ對シテ其權利ヲ行フコトヲ得ス(舊民法財産取得編第二三條第二項、第三一五條、第三一六條、第三四八條)

以上叙述シタル所ニ依レハ相續債權者、受遺者及ヒ相續人タルヘキ者ハ一年四箇月以上ノ間モ相續財産ニ對シテ權利ヲ行使スルノ時期アルニ此長キ期間ニ請求ノ申出ヲ爲サス相續權ノ主張ヲ爲サザルトキハ最早相續人タルヘキ者ナク亦相續債權者及ヒ受遺者ナシト看做スモ不當ナラサルヘシ而シテ永ク財産

ヲ主體ナキ狀況ニ置キ假設ノ主體タル法人ノ管理ニ託スルハ管理人ヲ煩ハスコト甚タ大ナルノミナラス國家經濟上不利益ナレハ此場合ニ於テハ相續財産ヲ斷然國庫ニ歸屬スルモノト爲シタリ或立法例ニ於テハ相續人ナキ相續財産ハ相續開始地ノ小學校、養育院又ハ病院ニ歸屬スト爲スモノアレトモ國庫ハ公益ノ爲メニ相續財産ヲ使用スルモノト推測スルコトヲ得ルカ故ニ本法ニ於テハ以上ノ如ク定メタルナリ

以上ノ如ク相續財産カ國庫ニ歸屬スルトキハ一時主體ナキカ爲メニ設ケラレタル法人ノ解散スヘキハ當然ナリ又法人消滅スルトキハ其管理人ハ職務ノ終了ヲ告クヘク隨テ財産ノ歸屬スヘキ國庫ニ對シテ清算セサルヘカラサルヤ當然ナリ

外國ノ多數ノ立法例ノ如ク國庫ヲ被相續人ノ相續人ト爲ササルカ故ニ國庫ハ單ニ相續財産ヲ取得スルニ過キサレハ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シテハ何等ノ義務ヲ負擔セサルナリ相續債權者及ヒ受遺者ハ曩ニ叙述シタルカ如ク第千五十七條ノ期間內ニ其請求ノ申出ヲ爲ササルトキハ相續財産カ國庫ニ歸屬スルマテハ期間內ニ請求ノ申出ヲ爲シタル他ノ債權者及ヒ受遺者ニ辨濟ヲ爲シタル殘餘財産ニ付キ辨濟ヲ受クルコトヲ得レトモ既ニ國庫ニ歸屬シタル以上ハ國庫ニ對シテ其權利ヲ行フコトヲ得ス又相續財産カ國庫ニ歸屬シタル後ニ至リ相續人現出スルトモ是レ亦相續財産ヲ回復スルコトヲ得サルナリ

第六章　遺言

遺言(testament)トハ死者カ生存中自己ノ死亡シタル後法律上ノ效力ヲ生セシムル目的ヲ以テ爲シタル意思表示ニシテ要式ノ法律行爲ナリ即チ其效力ヲ生スヘキ時期ニハ表意者存在セス又表意ノ當時ニ在リテハ相手方ナクシテ其效力ヲ生スル場合ニ遺言ノ解釋ニ困難ナルコトアルヘク且遺言ハ異常ノ行爲ニシテ屢ゝ爲スコトナキモノナレハ法律カ或方式ニ依ラシメテ其明確ナラシムルコトヲ期シタルナリ

遺言ノ適用ハ遺贈ニ關シテ最モ重要ナリト雖モ是レ唯リ財産ノミニ關スルニ非ス相續人ヲ指定シ(第九七九條)相續人ノ廢除(第九七六條)又ハ其取消(第九七七

條)ノ意思表示ヲ爲シ後見人(第九〇一條)、後見監督人(第九一〇條)、親族會員(第九四五條)ヲ指定シ養子縁組(第八四八條)ヲ爲シ私生子ヲ認知スル(第八二九條)等皆遺言ニ依リテ爲スモノ多シ然ルニ舊民法ハ遺言ヲ以テ遺贈ヲ爲ス方法ナリト認メ贈與及ヒ遺贈ニ關スル財産取得編中遺言ニ關スル規定ヲ揭ケタルニ因リ遺贈ニ關セサル以上ノ如キ行爲ニ關スル遺言ノ如キハ如何ナル規定ニ從フヘキカニ付キ疑ヲ生セシムルノミナラス遺贈ニ關スル遺言ノミニ付テハ特別ノ方式ヲ必要トシ其他ノ遺言ニハ之ヲ要セスト爲スカ如キハ固ヨリ其當ヲ得ス故ニ本法ニ於テハ廣ク各種ノ遺言ニ普通ナル規定ヲ揭ケタルモノニシテ遺言ヲ以テ單ニ財産取得ノ一方法ト解セシムルカ如キ舊民法ノ缺點ヲ除去セリ而シテ遺言ハ以上叙述スルカ如ク唯リ相續ノミニ關セサルニ之ヲ相續編中ニ置キタル所以ハ他ナシ遺言ハ相續ニ關スルコト最モ多キヲ以テナリ遺言ノ相續ニ關スルコト多キトハ遺言ノ主タル目的ハ家督又ハ遺産ノ相續ニ關スルモノニシテ遺贈ノ如キモ曩ニ第九百六十九條ニ付キ叙述シタルカ如ク受遺者ハ廣義ニ於ケル遺言者ノ相續人タルニ外ナラス又受遺者ノ權利ハ相續人ノ權利ヲ減殺スルモノナレハ是レ亦相續ニ關スル問題タルヘキナリ

本章ヲ分チテ五節ト爲シ第一節ヲ總則トシ遺言ニ關スル通則ヲ規定シ第二節ヲ遺言ノ方式トシ以テ普通方式ト特別方式トヲ規定シ第三節ヲ遺言ノ效力トシ遺言カ何レノ時ヨリ效力ヲ生スヘキカ其他遺贈ノ效力ニ關スル解釋的規定ヲ揭ケ第四節ヲ遺言ノ執行トシ遺言ヲ執行スルニ付キ必要ナル條件及ヒ遺言執行者ニ關スル規定ヲ揭ケ第五節ヲ遺言ノ取消トシ遺言ハ如何ナル場合ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得ヘキカ又其取消ノ方式如何ヲ規定セリ

第一節　總則

○遺言ハ要式―第千六十條　遺言ハ本法ニ定メタル方式ニ從フニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス(舊民法財産取得編第三六八條)

法律ハ遺言ヲ一ノ要式行爲ト爲セリ即チ法律カ定メタル方式ニ從フニ非サレハ遺言ハ其效力ヲ生セサルモノト爲セリ曩ニ叙述シタルカ如ク遺言ニ方式ヲ要スルハ遺言者ノ意思表示ノ確實ナルコトヲ期スルニ外ナラス蓋シ遺言ハ之

ヲ爲シタル時ニ其效力ヲ生セス遺言者ノ死後ニ至リ始メテ其效力ヲ生スルモノナレハ本人ノ死後ニ於テ之ヲ改ムルコトヲ得サルモノニシテ遺言ニ關シテハ特ニ詐欺、錯誤等ヲ豫防スルコトヲ要ス詳言スレハ遺言カ效力ヲ生スル時ニハ遺言者存在セス其遺言ヲ爲ス時ハ多クハ死ニ瀕シタル時ニシテ其意思ノ健全ナラサルコト最モ多カルヘクシテ其周圍ニ在ル親族、知己ハ此不健全ナル意思ヲ利用シ瀕死者ノ意思ヲ枉ケ自己ニ利益ナル遺言ヲ爲サシムル虞アリ此弊ヲ豫防シ遺言者ノ眞正ナル意思ヲ貫徹セシメンカ爲メニハ正確ナル證人又ハ正確ナル書證ヲ望マサルヲ得ス是レ諸國ノ立法例概ネ皆遺言ヲ以テ要式行爲ト爲ス所以ニシテ本法ニ於テモ之ニ倣ヒ他ノ意思表示ハ殆ト皆一切ノ方式ヲ必要トセサルニ拘ハラス唯遺言ニ限リ要式行爲ト爲シタル所以ナリ

又遺言ハ本人ノ死後ニ其效力ヲ生スルモノニシテ此ノ如キハ法律ノ明文ヲ待チテ然ルコトヲ得ヘシトノ理論ニ基キ故ラニ何人ト雖モ遺言ヲ爲シ得ルコトノ原則ヲ示ス立法例少カラスト雖モ我邦ニ於テハ從來ヨリ遺言カ法律上效力ヲ有スルコトハ何人モ疑ハサル所ナルヲ以テ特ニ遺言ノ權利ニ關スル規定ヲ揭ケサルナリ

○遺言ノ能力＝第千六十一條　滿十五年ニ達シタル者ハ遺言ヲ爲スコトヲ得

(舊民法財產取得編第三五七條第四號)

凡ソ無能力者ハ單獨ニテ法律行爲ヲ爲ス能力ナキコトハ第一編總則(第四條、第九條)ニ規定スル所ニシテ遺言モ亦一ノ法律行爲ナルカ故ニ無能力者ハ單獨ニテハ完全ナル遺言ヲ爲スコトヲ得サル筋合ナリ然レトモ元來遺言ハ遺言者最終ノ意思表示ニシテ最モ神聖ナルモノナレハ死者ノ意思ヲ尊重セント欲スル立法ノ精神ニ依リ他ノ法律行爲ノ如ク或ハ法定代理人ヲシテ代リテ之ヲ爲サシメ或ハ一定ノ人ノ同意ヲ得テ之ヲ爲サシムルカ如キコトハ認ムルヲ得ス又遺言ハ未成年者ノ死亡前必ス爲ササルヲ得サルモノニシテ他ノ普通ノ法律行爲ノ如ク他日ヲ待チテ爲スコトヲ得ルモノトハ大ニ異ナルカ故ニ遺言年齡ヲ以テ普通ノ法律行爲ニ關スル成年ト同一ナラシムルハ甚タ酷ニ失スルノミナラス既ニ養子緣組又ハ婚姻年齡ヲ以テ成年以下ニ定メタル以上ハ未タ成年ニ達セサル者ト雖モ既ニ養子緣組ヲ爲シ又ハ婚姻ヲ爲シタル者ノ如キハ實際上

遺言ノ必要ヲ感スルコト決シテ尠少ナラサルヘシ殊ニ本法ニ於テハ未成年者ト雖モ有效ニ法律行爲ヲ爲ス能力ヲ有シ(第四條)唯之ヲ取消スコトヲ得ルニ止マルモノト定メタル以上ハ遺言年齡ヲ以テ普通ノ成年以下ニ定ムルモ敢テ立法ノ本旨ニ悖ルモノニ非ス加之多數ノ立法例ハ特ニ遺言年齡ヲ指定スルモノニシテ普漏西、墺太利、索遜、巴威爾等ノ民法ハ滿十四年トシ佛蘭西民法ハ滿十六年トシ加那太、紐育等ノ法典及ヒ獨逸民法ハ滿十八年トシ獨逸普通法ハ羅馬法ノ例ニ倣ヒテ男子ハ滿十四年女子ハ滿十二年ヲ以テ遺言年齡ト爲セリ而シテ男女ノ區別ニ從ヒ遺言年齡ヲ區別スルコトハ其理由ナキニ非スト雖モ此ノ如キハ餘リ細密ニ失スルカ故ニ本法ハ女子ノ婚姻年齡及ヒ養子縁組ノ年齡其他諸般ノ事情ヲ斟酌シテ滿十五年ヲ以テ遺言年齡ト爲シタル所以ナリ

○無能力者ニ關スル取消規定ノ例外＝第千六十二條　第四條、第九條、第十二條及ヒ第十四條ノ規定ハ遺言ニハ之ヲ適用セス(舊民法財産取得編第三五七條)

(一)第四條ハ未成年者カ法律行爲ヲ爲スニハ法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要シ此規定ニ反スル行爲ハ取消スコトヲ得ヘキ規定ナリ

(二)第九條ハ禁治産者ノ行爲ハ取消スヲ得ヘキコトヲ規定セリ

(三)第十二條ハ準禁治産者カ或行爲ヲ爲スニハ保佐人ノ同意ヲ得ルコトヲ要シ此規定ニ反スル行爲ハ取消スヲ得ヘキコトヲ規定セリ

(四)第十四條ハ妻カ或行爲ヲ爲スニハ夫ノ許可ヲ受クルコトヲ要シ此規定ニ反スル行爲ハ取消スヲ得ヘキコトヲ規定セリ

遺言ハ曩ニモ叙述シタルカ如ク遺言者カ最終ニ爲シタル意思表示ニシテ最モ尊重セサルヘカラサルモノニシテ遺言者カ最モ自由ニ爲シ得ルコトヲ要スルモノナルニ以上ノ規定ノ如ク他人ノ意思ニ依リテ制限セラルルコトト爲ストキハ以上ノ者ノ爲シタル遺言ハ多クハ效力ヲ有セサルニ至ルヘクシテ此ノ如キハ無能力者ニ遺言ヲ爲スコトヲ認メタル立法ノ精神ニ背戻スヘキカ故ニ本條ニ於テ未成年者(十五年以上ノ)、禁治産者、準禁治産者カ法定代理人ノ同意ヲ得スシテ又ハ妻カ夫ノ許可ヲ得スシテ遺言ヲ爲シタルトキハ全然有效ニシテ復タ取消スコトヲ得サルモノト爲セリ

○遺言能力ノ有效ナル時期＝第千六十三條　遺言者ハ遺言ヲ爲ス時ニ於テ其

○能力ヲ有スルコトヲ要ス(舊民法財產取得編第三五四條)

遺言ハ之ヲ爲シタル時直チニ效力ヲ有スルモノニ非ス遺言者ノ死亡シタル時ニ至リ始メテ效力ヲ生スルモノニシテ遺言ヲ爲シタル時ト其效力ヲ生スル時トハ異ナルカ故ニ遺言者カ遺言ヲ爲シタル時ハ無能力ナルモ遺言カ效力ヲ生スル頃ハ能力者タルコトアリ又ハ遺言カ效力ヲ生スル頃ハ無能力者タルモ遺言ヲ爲ス時ハ能力者タルコトアリ而シテ法律行爲ハ普通ノ場合ニ於テハ行爲者カ行爲ノ當時能力者タルニ於テハ完全ニ成立スヘキカ故ニ遺言モ遺言者カ之ヲ爲ス當時能力ヲ有セシニ於テハ遺言ハ完全ニ成立シ其後ニ於テ遺言者カ能力ヲ失フモ之カ爲メ遡リテ遺言ノ成立ニ影響ヲ及ホスヘキ謂ハレナキヲ以テ遺言ハ之ヲ爲ス時能力ヲ有スルコトヲ要スルモノト爲セリ之ニ反シテ遺言者カ行爲ノ當時無能力者ナリトセンカ其效力發生ノ當時能力者ナリトスルモ元來能力ナキ者ノ行爲ナレハ效力ヲ發生スヘキ謂ハレナシ

以上ハ法ノ明文ヲ俟タスシテ明カナルモノノ如シト雖モ遺言ハ縱令以前ニ成立シタリトモ其效力ヨリ云ヘハ恰モ遺言者ノ死亡ノ際ニ爲シタルニ等シキカ故ニ遺言ハ遺言者死亡ノ時ニ成立シタルモノトシ其時ニ遺言ノ成立ニ必要ナル條件ヲ具備スルコトヲ要スト爲ス者アルヨリ多數ノ立法例ニ倣ヒ遺言ノ成立ハ遺言者死亡ノ時ニ非サルコトヲ明カニスル爲メニ此規定ヲ設ケタリ而シテ遺言カ遺言者ノ死亡ノ時ニ成立シタルモノニ非スシテ之カ意思表示ヲ爲シタル時ニ成立シタリトスルコトノ正確ナルコトハ遺言ハ一旦之ヲ爲シタリトモ死亡ノ時マテ何時ニテモ取消スコトヲ得ヘクシテ若シ遺言者死亡ノ際成立スルモノトスルトキハ其成立セサルモノヲ取消スコトト爲リ謂ハレナキコトタルナリ

○遺言ニ因ル財產ノ處分權‖第千六十四條　遺言者ハ包括又ハ特定ノ名義ヲ以テ其財產ノ全部又ハ一部ヲ處分スルコトヲ得但遺留分ニ關スル規定ニ違反スルコトヲ得ス(舊民法財產取得編第三五四條)

遺言者カ遺言ヲ以テ財產ノ處分ヲ爲スコトヲ得ルハ言フヲ俟タサルモノノ如シト雖モ法律ハ相續ニ關スル規定ヲ設ケ死者ノ財產ハ當然其相續人ニ移轉スルコトヲ定ムル(第九八六條、第一〇〇一條)カ故ニ若シ法律カ明文ヲ揭ケテ遺言

者カ財産ノ處分權ヲ有スルコトヲ認メサルニ於テハ遺言者ハ法律ノ力ニ依リ自己カ權利ヲ失ヒタル後ニ於テ其財産ヲ處分スルコトト爲リ法律上或ハ無效タルモノノ如シ然レトモ遺言者ハ其生前自己ノ所有スル財産ハ隨意ニ之ヲ處分スルコトヲ得ヘキカ故ニ死後ニ於テ效力ヲ生スヘキ財産ノ處分ヲ其生前ニ於テ爲スコトヲ得セシメサルヘカラス而シテ遺言者ハ其所有スル財産中或物ヲ處分スルコトハ勿論其所有ノ動産、不動産及ヒ債券悉皆ヲ一括シテ處分スルコトモ得セシメサルヘカラス是ヲ以テ明文ヲ揭ケ遺言者ニ以上ノ如キ處分權アルコトヲ明カニシタルナリ

包括名義トハ全財産又ハ財産ノ二分ノ一若クハ三分ノ一ト云フカ如キ意義ニシテ財産ヲ特定セサルヲ謂ヒ特定名義トハ某不動産、某動産、某債權ト云フカ如ク特ニ目的物ヲ確定的ニ指示シタルヲ謂フモノニシテ包括名義ノ遺贈ヲ爲シタル場合ニ於テハ受遺者ハ權利ト共ニ義務ヲモ承繼スルモノトス例ヘハ財産全部ノ受遺者ハ債務ノ全部ヲ之ト共ニ承繼シ財産ノ二分ノ一ノ受遺者ハ債務ノ二分ノ一ヲ承繼スルモノトス特定名義ノ遺贈ノ場合ハ之ト異ナリテ負擔附遺贈ニ付テハ受遺者ハ權利ヲ得ルト同時ニ義務ヲ負擔スルコトアリト雖モ是レ遺言者ノ義務ヲ負擔スルニ非スシテ自己カ遺贈ヲ受ケタルニ因リ負擔シタル義務タルニ過キス而シテ此ノ如キ場合ヲ除クノ外ハ義務ヲ負擔スルコトナケレハ特定名義ノ遺贈ニ付テハ受遺者ハ一定ノ權利ノミ承繼スルモノトス其財産ノ價格ノ如キハ如何ニ夥多ニシテ其種類ノ如何ニ複雜ナルモ又實際ニ於テハ財産ノ二分ノ一若クハ三分ノ一ニ該當スト雖モ苟モ包括名義ニ非サル以上ハ皆特定名義ノ處分タルナリ

以上敍述スルカ如ク遺言者ハ自己ノ財産全部又ハ一部ヲ遺言ヲ以テ處分スルコトヲ得ヘシト雖モ之カ爲メニ遺留分權利者ノ權利ヲ侵害スルコトヲ得ス是レ曩ニ被相續人カ遺言ヲ以テ共同相續人ノ相續分ヲ定ムルヲ得ヘキコトヲ規定シタル第千六條ニ付キ敍述シタルカ如ク遺留分ハ公私ノ利益ヲ保護スル爲メ法律上特ニ認メラレタルモノニシテ被相續人カ死後處分ヲ爲スコトヲ得サルモノナルカ故ニ遺留分ニ關スル規定ニ反スルコトヲ得サルモノト爲シタルナリ

法律カ以上ノ如ク遺言ニ依リテ包括名義ヲ以テ其財產全部ノ處分ヲ認ムト雖モ遺留分ヲ侵害スルコトヲ許サヽレハ如何ナル場合ニ於テ遺言者ハ包括名義ノ處分ヲ爲スコトヲ得ヘキヤ戶主死亡シ家督相續ノ開始スル場合ニ於テハ戶主ハ其相續人ニ對シテ必ス財產ノ二分ノ一若クハ三分ノ一（第一一三〇條）ヲ遺留分トシテ遺サヽルヘカラサルカ故ニ此場合ニ包括名義ヲ以テ財產全部ノ處分ヲ爲ストキハ相續人ノ權利ヲ害スルニ至ルヘシ而シテ家督相續ノ場合ニ於テハ法定ノ推定家督相續人又ハ指定家督相續人ナキトキハ相續人ハ選定セラルヘキカ故ニ相續人ナキ場合ハ選定セラレタル相續人カ悉ク拋棄シテ相續ヲ承繼スル者ナキ場合ニ限レトモ此ノ如キ場合ハ事實上極メテ稀ナルヘシ之ニ反シテ遺產相續ニ於テハ法定相續人ノ外選定相續人ナル者ナク又法定相續人中戶主ハ遺留分ニ關スル權利ヲ有セサルカ故ニ此相續ニ付テハ遺留分權利者（第一一三一條）ナキコトアルヘケレハ家族カ死亡スル前遺言ヲ以テ其財產ノ包括名義ノ處分ヲ爲スコトアルヘキナリ

〇受遺者ノ資格——第千六十五條　第九百六十八條及ヒ第九百六十九條ノ規定ハ受遺者ニ之ヲ準用ス（舊民法人事編第二條、財產取得編第二九二條、第三五四條）

受遺者ハ遺言ニ因リテ利益、不利益ヲ受クル者ナレハ私權ヲ享有スル人格ヲ有セサルヘカラサルヲ原則（第一條）トス故ニ私權享有ノ能力ヲ有セサル死人、生レサル人及ヒ設立セサル法人ハ受遺者タルヲ得スト雖モ胎兒ハ一般ノ原則ニ依レハ未タ生レサル者ナルカ故ニ權利ノ主體タルコトヲ得サルニ拘ハラス相續ノ場合（第九六八條、第九九三條）及ヒ損害要償權ニ關スル第七百二十一條ノ如ク遺言ノ場合ニ於テモ法律ハ假設ヲ設ケ胎兒ヲ既ニ生レタル者ト看做シ之ニ權利ノ主體タルコトヲ許シ受遺者タル資格ヲ與ヘタリ是レ舊民法及ヒ其他多數ノ立法例ノ共ニ認ムル所ナリ是ヲ以テ遺言者死亡ノ時即チ遺言カ效力ヲ生スル時未タ生レサルトモ其前既ニ孕胎シ而シテ後生存シテ生ルルトキハ遺言者死亡ノ時既ニ生レシ者ノ如ク遺贈ヲ受クルコトヲ得ルモノトス普通ノ原則ニ從ヘハ私權享有能力ヲ有スル者ト雖モ相續ニ關スル第九百六十九條及ヒ第九百九十七條ニ依レハ故意ニ相續人又ハ相續ニ付キ自己ト利害相

反スル者ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サントシテ刑ニ處セラレタル者又ハ被相續人ノ害セラレタルコトヲ知リテ之ヲ告發若クハ告訴セサリシ者其他詐欺若クハ強迫ニ因リ被相續人カ遺言ヲ爲スコトノ自由ヲ妨ケタル者又ハ遺言書ヲ僞造、變造、毀滅若クハ藏匿シタル者ハ皆相續ヲ爲スニ付キ資格ヲ有セサルナリ而シテ此等ノ者ハ亦同一ノ理由ヲ以テ遺贈ノ場合ニ受遺者タルコトノ資格ナキ者ト爲スハ當然ナルカ故ニ以上ノ規定ヲ茲ニ準用スルコトト爲シタリ

○遺言ノ禁止――第千六十六條　被後見人カ後見ノ計算終了前ニ後見人又ハ其配偶者若クハ直系卑屬ノ利益ト爲ルヘキ遺言ヲ爲シタルトキハ其遺言ハ無效トス

前項ノ規定ハ直系血族、配偶者又ハ兄弟姉妹カ後見人タル場合ニハ之ヲ適用セス

後見ノ計算終了前ニ被後見人カ後見人ノ爲メニ利益タルヘキ遺言ヲ爲スコトヲ許ストキハ後見人ト被後見人トノ間ニ於テ一種ノ弊害ヲ生スルカ故ニ本法ハ之ヲ豫防スルカ爲メニ本條ヲ設ケタリ蓋シ後見人ハ被後見人ニ對スル地位

キ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ得(第四七四條)而シテ此擔保ノ請求權ヲ有スル者ハ所持人ニ限ルニ非ス所持人ヨリ其請求ノ通知ヲ受ケタル前者即チ裏書人モ亦同一ノ權利ヲ行使スルコトヲ得ヘシ(被參加人及ヒ保證人ニ付テハ後ニ至リテ説明スヘシ)而シテ引受拒絶ニ遇ヒタル所持人竝ニ自己ノ後者ヨリ請求ノ通知ヲ受ケタル裏書人カ其權利ヲ行使スルニハ一定ノ手續ヲ踐行セサルヘカラス即チ

(甲)所持人ハ引受拒絶證書ヲ作成セシメ前者ニ對シテ擔保請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス但手形ニ豫備支拂人ノ記載アルトキハ其通知ヲ發スル前之ニ引受ヲ求メサルヘカラス而シテ其引受ナキトキハ其旨ヲ拒絶證書ニ記載シタル後擔保請求ノ通知ヲ發スヘキモノトス

(乙)裏書人ニシテ其後者ヨリ擔保請求ノ通知ヲ受ケタルトキハ自己ノ前者ニ對シテ等シク擔保請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

右孰レノ場合ニ於テモ其請求ノ通知ハ遲滯ナク之ヲ發セサルヘカラス而シテ其前者中何人ニ對シテ通知スヘキヤハ一ニ所持人又ハ裏書人ノ欲スル所ニ依

ル蓋シ擔保ノ請求ハ所持人又ハ裏書人ノ爲メニ設ケタルモノナルカ故ニ其請求ヲ爲スト否トハ彼等ノ意思ニ依リテ決定セラレ其前者ニ付テ擔保ノ義務ヲ履行セシメントスル者ニ對シテノミ通知ヲ發セシムレハ足レリ尤モ其通知ヲ發セサル者ニ對シテ擔保請求ノ權利ヲ失フヘキハ勿論ナリ(第四七五條、第四七六條及ヒ第五〇〇條)此ノ如ク支拂拒絶證書ヲ作ラシメ且通知ヲ發スルヲ以テ擔保請求權行使ノ條件ト爲シタルハ他ナシ振出人、裏書人ノ負擔スル擔保義務ハ極メテ嚴格ナルモノニシテ而モ其義務履行ノ責ニ任スルハ一ニ支拂カ拒絶セラレタルニ起因スルモノナルヲ以テ其事實ハ之ヲ公ノ手續ニ依リテ證明セシメンカ爲メ又遲滯ナク通知ヲ發セシメテ其債務者ヲシテ手形ノ運命ヲ知リ其請求ニ應スヘキ準備ヲ爲スノ機會ヲ得セシメンカ爲メナリ

以上ノ條件ヲ具ヘタル擔保ノ請求アリタルトキハ之ヲ受ケタル擔保義務者ハ遲滯ナク相當ノ擔保ヲ供スルコトヲ要ス其擔保ノ供出ハ引受拒絶證書ト引換ニ之ヲ爲セハ足リ其引渡ナクンハ之ヲ拒ムコトヲ得ルナリ蓋シ擔保ヲ供出スル者ハ更ニ其前者ニ對シテ擔保ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘシト雖モ引受カ拒絶セラレタルコト即チ擔保義務者カ其義務ヲ履行スヘキ時期ノ到來シタルコトハ其證書ニ依ルノ外他ニ法ノ認ムル證明ノ途ナケレハナリ而シテ其擔保ノ種類ハ物上擔保タルト對人擔保タルトヲ問ハス苟モ引受ナカリシ金額及ヒ費用ヲ確保スルニ足ルヘキモノナレハ可ナリ又必スシモ擔保ヲ供セストモ擔保ニ代ヘテ相當ノ金額ヲ供託スルコトモ亦法ノ認ムル所ナリ(第四七七條)

擔保請求權ノ行使ハ裏書ノ順序ニ依リテ爲スヲ要セス法文ニモ單ニ其前者ニ對シテ請求ヲ爲スコトヲ得ト規定シ其前者ノ何人タルカヲ限定セサルナリ屡、說明シタルカ如ク手形上ノ債務ハ手形行爲ニ基キテ發生シ振出人及ヒ裏書人ハ各直接ニ自己ノ後者全員ニ對シテ擔保ノ責任ヲ負擔スルモノナルヲ以テ所持人ハ裏書ノ順序ニ依リテ請求ヲ爲スノ必要ナキコト是レ手形債務ノ性質ヨリ生スル自然ノ結果ナリ故ニ擔保權利者カ其請求權ヲ行使スルニ當リテハ必スシモ其直接ノ前者ニ對セス間接ノ前者ヲシテ擔保ヲ供出セシメ又ハ供託ヲ爲サシムルコトアルハ勿論ニシテ此場合ニ關シ法ハ一ノ特別規定ヲ爲シ居レリ即チ其間接ノ前者カ擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタルトキハ其後者全員ノ爲

メ且其後者全員ニ對シテ之ヲ爲シタルモノト看做シタリ蓋シ振出人、裏書人ハ其誰タルヲ問ハス自己ノ後者全員ニ對シテ擔保ヲ供スルノ義務アルコト勿論ナリト雖モ既ニ其中ノ一人ニシテ擔保ヲ供シタル者アルトキハ最早擔保ヲ重ネシムルノ必要ナキカ故ニ其者ノ後者ヲシテ擔保供出ノ義務ヲ免レシムルノ至當ナルハ勿論且此擔保ヲ以テ直チニ此等ノ後者カ他日償還ヲ爲シタル場合ニ於テ此擔保ノ供出者ニ對シテ有スル償還請求權ノ擔保ニ充ツルコトヲ得セシムルハ便利且至當ノ事柄ナレハナリ之ト同シク所持人又ハ裏書人カ其前者ノ一人ニ對シテ發シタル擔保請求ノ通知モ之ヲ其通知ヲ受クル者ノ後者全員ノ爲メニ爲シタルモノト看做スハ是レ亦通知其モノノ性質上同一人ニ對シテ之ヲ重ネシムルノ必要ナキ點ヨリ觀察シ且通知發送ノ手數ヲ省ク上ヨリ觀テ至當且便利ノ規定ナリ是レ擔保ノ供出又ハ通知ニ關シテ特ニ第四百七十八條ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ

第二　破産宣告ノ場合ニ於ケル擔保請求

引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ所持人並ニ裏書人カ其前者ニ對シ擔保ノ請求ヲ爲シ得ルハ第四百八十條ノ規定スル所ナリ引受人ノ資力カ支拂不確實ノ狀況ヲ呈シタル場合中ニ付キ特ニ破産ノ宣告アリタルトキニ限リテ此權利ヲ認メタルハ他ナシ引受アリタル後ニ於テハ原則トシテ所持人ハ擔保ノ請求ヲ爲シ得ルモノニ非ス其請求權ヲ認ムルハ例外ノ場合ニ屬スルカ故ニ其範圍ハ特ニ之ヲ制限スルノ必要アリ若シ廣ク資力ノ不確實ナル總テノ場合ニ付キ擔保請求權アリトセハ資力ノ確否ニ關シ絶エス紛爭ヲ生スルノミナラス或ハ却テ此請求權ヲ濫用スルノ弊害ヲ生スルニ至ルヘケレハナリ

破産宣告ノ場合ニ於テ所持人カ其前者ニ對シテ擔保ヲ請求セントスルニハ一定ノ手續アリ即チ先ツ引受人ニ對シテ相當ノ擔保ヲ請求スルコトヲ要シ引受人カ之ヲ供セサルトキニハ拒絶證書ヲ作ラシメサルヘカラス而シテ此場合ニ於テ若シ手形ニ豫備支拂人カ記載セラレ居ルトキニハ之ニ對シ遲滯ナク其通知ヲ發シタル上引受ヲ求ムルコトヲ要シ單純ナル引受ヲ得サリシトキハ之ヲ拒絶證書ニ記載セシメ然ル後擔保ヲ供セシメントスル前者ニ對シ遲滯ナク擔保請求ノ通知ヲ發セサルヘカラス此通知ハ裏書人カ其前者ニ對スル權利ヲ保

全スルニモ亦必要アリ且此通知ハ之ヲ受クル者ノ後者全員ノ爲メニ爲シタルモノト看做サルルコト引受拒絶ノ場合ト異ナルコトナシ

尙ホ此破産宣告ノ場合ニ於テ擔保セラルヘキ金額擔保ノ種類竝ニ前者カ供シタル擔保ハ其後者全員ノ爲メ且其後者全員ニ對シテ爲シタルモノト看做サルルコトハ引受拒絶ノ場合ト同樣ニシテ第四百七十四條乃至第四百七十八條ノ規定カ準用セラレ居ルニ過キサルヲ以テ説明ヲ略ス

第二款　擔保ノ消滅

引受拒絶ノ場合竝ニ引受人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ所持人及ヒ裏書人ニ擔保請求權ヲ認メタルハ一ニ支拂ノ不確實ニ對シテ手形ノ安全ヲ圖リ以テ其信用ヲ維持スルニ在リ故ニ其擔保ヲ供スルニ至ラシメタル理由消滅センカ一旦供シタル擔保ハ其效力ヲ失ヒ供託シタル金額ハ之ヲ取戻スコトヲ得セシムルモ何等ノ妨ナキナリ之ニ付テ法ノ規定スル所ハ左ノ如シ

第一　支拂拒絶ノ場合ニ於ケル擔保ノ消滅

（一）後日ニ至リ手形ノ單純ナル引受アリタルトキ　元來擔保ヲ供スルニ至リタルハ畢竟手形カ記載文言ニ從ヒテ引受ケラレス當事者ノ豫期シタル所ニ反スル結果ヲ生シタルカ爲メニ外ナラサルカ故ニ他日單純ナル引受アリタル場合ニ其擔保ヲシテ效力ヲ失ハシムルハ當然ナリ

（二）手形金額及ヒ費用ノ支拂アリタルトキ　擔保ハ手形金額ノミナラス費用ヲモ併セ確保シ居ルモノナルカ故ニ此兩者ニ付テ支拂アリタル場合ニ限リ其效力ヲ失フモノト爲シ其一方ノミノ支拂ニ付キ擔保ノ消滅ヲ認メサルナリ

（三）擔保ヲ供シ若クハ供託ヲ爲シタル者又ハ其前者カ償還ヲ爲シタルトキ　擔保供出ニ因リテ利益ヲ受クル者ハ所持人ノミナラス其之ヲ供シタル者ノ後者全員モ亦之ニ因リテ利益ヲ受クルコトハ前陳セルカ如シ故ニ其後者カ償還ヲ爲セハトテ其擔保ハ之カ爲メニ消滅スルノ理由ナシト雖モ其前者ハ此擔保供出者ニ對シテハ償還義務ヲ負擔スル者ナルヲ以テ此者カ償還ヲ爲シタルトキハ之ニ因リテ擔保ノ效力ヲ失ハシムルハ當然ナリ其他擔保ヲ供シ供託ヲ爲シタル者カ償還ヲ爲シタルニ因リテ擔保ノ消滅スルハ勿論ナリ

(四) 手形上ノ債權カ時效又ハ手形ノ欠缺ニ因リテ消滅シタルトキ　擔保セラルル主タル債務カ其存在ヲ失ヒタルトキ之ニ因リテ擔保カ其效力ヲ失フハ別ニ說明ヲ要セス

(五) 擔保ヲ供シ又ハ供託ヲ爲シタル者カ滿期日ヨリ一年內ニ償還ノ請求ヲ受ケサリシトキ　擔保ノ煩ヲ永ク繼續セシムルハ之ヲ供出シタル者ノ迷惑モ甚シク所持人カ一箇年ノ永キ間償還ノ請求ヲ爲サヽルカ如キハ其怠慢殊ニ甚シキモノアリ故ニ此規定ヲ爲スモ敢テ所持人ニ對シテ酷ナリト謂フヲ得サルナリ

第二　破產宣告ノ場合ニ於ケル擔保ノ消滅

大體ニ於テ引受拒絕ノ場合ト異ナルコトナキモ多少相異ナル所ハ第四百八十條ヲ說明シタル所ニ付テ參照スレハ之ヲ解スルコト敢テ難カラサルナリ左ニ其場合ヲ列擧スヘシ

一　豫備支拂人カ後日ニ至リ單純ナル引受ヲ爲シタルトキ

二　引受人カ後日ニ至リ相當ノ擔保ヲ供シタルトキ

三　引受拒絕ノ場合ニ付テ說明セル(二)乃至(五)ノ場合

第五節　支拂

手形ハ振出ヲ以テ發生シ裏書ニ依リテ活動シタル後支拂アリテ玆ニ其效用ヲ完ウスルモノニシテ支拂ハ既存ノ總テノ手形關係ヲ消滅セシムル手形取引ノ最終行爲ナリ

附言　本學年ノ終期切迫シテ詳細ノ講義ヲ爲スノ餘日ナキヲ以テ以下款項ノ編別ヲ廢シ緊要ノ題目ニ就テノミ講演スルコトヽ爲セリ乞フ之ヲ諒セヨ

第一　支拂ノ請求

支拂ヲ求ムルノ方法ハ支拂ヲ爲スヘキ地位ニ在ル者ニ手形ヲ呈示スルニ在リ即チ引受人、支拂人又ハ他所拂ノ手形ニシテ支拂擔當者ノ記載アルトキハ之ニ對シ手形ヲ呈示シテ其請求ヲ爲スヘキナリ此ノ如ク支拂ノ請求ニ手形ノ呈示ヲ必要トスルハ手形ノ本質上當然ノコトニシテ手形上ノ權利ハ手形ニ固著シ

手形ニ依ルノ外他ニ之ヲ行使スルノ途ナキコト屢〻述ヘタル所ノ如シ支拂ノ爲メニスル手形呈示ノ場所ハ一言セハ手形ニ支拂場所ノ記載アルトキハ其場所若シ之カ記載ナキトキハ支拂ヲ爲スヘキ地位ニ在ル者即チ引受人、支拂人又ハ支拂擔當者ノ營業所若シ營業所ナキトキハ其住所又ハ居所ナリ此事ハ總則ノ部ニ於テ既ニ詳細ノ説明ヲ爲シタルヲ以テ之ヲ再説セス而シテ他所拂ノ手形ニシテ支拂擔當者ノ記載ナキトキ支拂人ニ手形ヲ呈示スルニハ支拂地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要シ若シ支拂地ニ於テ支拂人ヲ發見シ得サルトキハ縱令支拂地以外ニ其營業所又ハ住所若クハ居所ノ存在スルモ其場所ニ就テ手形ヲ呈示スルノ必要ナク直チニ第四百十二條第二項ノ規定カ適用セラルルモノト知ルヘシ(第四九〇條)

支拂ノ爲メニ手形ヲ呈示スヘキ時期ハ支拂拒絶證書ヲ有效ニ作成シ得ヘキ期間内ニシテ滿期日及ヒ其後二日内ナリ滿期日到來以前ニ於テ支拂ヲ請求シ得サルハ勿論ナルモ滿期日到來シタルトキハ其當日又ハ遲クモ其後二日内ニハ手形ヲ呈示シテ支拂ノ請求ヲ爲ササルヘカラス

此支拂請求ノ時期ニ付テ特別ノ規定ヲ要スルハ一覽拂ノ手形ナリ此種ノ手形ニ在リテハ支拂時期ノ到來スルハ一ニ所持人カ支拂ノ爲メニスル手形ノ呈示ヲ爲スニ依リテ定マルモノナルカ故ニ曩ニ引受ノ請求ニ關シ一覽後定期拂ノ手形ニ付テ述ヘタルト同一ノ趣旨ニ由リ其性質上特ニ支拂ノ爲メニ手形ヲ呈示スヘキ期間ヲ限定スルノ必要アリ故ニ法ハ原則トシテ其期間ヲ手形發行ノ日ヨリ起算シテ一箇年ト定メ而シテ振出人ニハ特ニ之ヨリ短キ呈示期間ヲ定ムルコトヲ得ト爲セリ故ニ此種ノ手形所持人ハ必ス日附ヨリ一箇年内又ハ振出人ノ定メタル期間内ニ支拂ノ爲メニ手形ヲ呈示スヘキモノニシテ之ヲ怠リタルトキハ勿論縱令其呈示ヲ爲スモ之ヲ拒絶證書ニ依リテ證明セサルトキハ其前者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フヘキコト一覽後定期拂手形ノ引受時期ニ關シテ述ヘタル所ト同樣ナリ(第四八二條)

要スルニ支拂ノ請求ハ正當ノ時期ニ於テ正當ノ場所ニ就キテ支拂ヲ爲スノ地位ニ在ル者ニ對シ手形ヲ呈示シテ之ヲ爲スヘキモノニシテ此手續ヲ誤ルトキハ之カ爲メニ償還請求權ヲ失フノ結果ヲ生スヘキナリ茲ニハ唯其手續ヲ盡サ

サル結果トシテ生スル問題中特別ノ場合即チ一覽拂ノ手形ニ關シテ一言シタルノミ其一般ノ場合ニ關シテハ償還請求ノ題下ニ詳細ノ説明ヲ爲スヘシ

第二　支拂

支拂ヲ爲スヘキ時期ハ滿期日ナリ滿期日トハ定期拂ノ手形ニ在リテハ確定セル日、日附後定期拂ノ手形ニ在リテハ日附後確定セル期間ヲ經過シタル日、一覽後定期拂ノ手形ニ在リテハ第四百六十七條ニ依リ所持人カ引受ヲ求ムル爲メニ手形ヲ呈示シタル日若クハ同規定上其呈示アリタルモノト看做サルル日ヨリ確定期間ヲ經過シタル日、一覽拂及ヒ滿期日ノ記載ナキ手形ニ在リテハ第四百八十二條ニ規定セル期間内ニ支拂ノ爲メニスル手形ノ呈示アリタル日ナリ現行法ハ支拂ニ付キ恩惠期日ヲ認ムルノ主義ヲ採用セサルカ故ニ此滿期日ノ到來シタルトキハ何時手形ヲ呈示セラルルモ直チニ之ニ應シテ支拂ヲ爲スコトヲ要ス然レトモ流通證劵ハ其性質トシテ債務者ハ現在何人カ債權者ナルヤヲ豫知スルニ由ナク隨テ自ラ進ミテ支拂ノ提供ヲ爲シ得ヘクモ非スシテ之ヲ債權者ノ請求ニ待ツノ外ナキヲ以テ滿期日到來後ハ何時ニテモ支拂ノ請求ニ應スヘキモノナリトスルモ其遲滯ノ責ニ任スルハ支拂ノ爲メニ手形ヲ呈示セラレタル時ニ在リト謂ハサルヘカラス此ノ如ク手形ノ呈示ナキ間ハ未タ遲滯ノ責ニ任スルモノニ非スト雖モ其支拂ヲ爲スノ義務ハ仍ホ依然トシテ存續スヘキハ勿論ナリ固ヨリ遲滯ノ責ニ任スト云ヒ支拂義務存續スト云フハ是レ皆引受人ニ關スル問題ニシテ引受ナキ手形ノ支拂人ニ關スルモノニ非サルハ多言ヲ要セサルナリ

引受人ハ他所拂ノ手形ニ關スル特別ノ場合ヲ除キ(第四九〇條參照)他ハ時效期間ノ經過セサル間ハ依然トシテ支拂ノ責ニ任スルモノナルヲ以テ滿期日到來スルモ手形ノ呈示ナキトキハ少クトモ尚ホ三箇年間ハ何時ニテモ請求ニ應スヘキ準備ヲ整ヘ自己ノ危險ニ於テ手形金額ヲ保管スヘクシテ其煩勞殊ニ甚シキモノアリ斯ル場合ニ其支拂義務ヲ免レントスルニハ手形金額ヲ供託スルノ外ナシ然レトモ其供託ハ支拂拒絶證書作成期間ヲ經過シタル後ニ於テ爲スヘキモノニシテ法ハ滿期日到來スルモ直チニ供託ヲ爲スノ權能ヲ認メ居ラサルナリ(第四八五條)蓋シ支拂拒絶證書ノ作成期間ハ曩ニ一言シタルカ如ク所持人カ

有效ニ手形ノ呈示ヲ爲シ得ヘキ期間ナルヲ以テ此期間ノ經過セサル間ハ仍ホ引受人ヲシテ自ラ手形金額ヲ保管シ以テ其請求アルヲ待タシムルノ必要アレハナリ

其他支拂ヲ爲スヘキ場所ハ支拂ノ爲メニ手形ヲ呈示セラレタル場所ナルハ勿論ノ事ニシテ又支拂ノ目的ハ曩ニ振出ノ要件ニ關スル説明中ニ一定ノ金額ニ付テ説明シタル所竝ニ民法第四百二條及ヒ第四百三條ノ規定ヲ參照スレハ之ヲ了解スルコト敢テ難カラサルヘキカ故ニ別ニ説明ヲ爲サス

第三　支拂ノ效力

其説明ニ先チテ一言スヘキハ一部支拂ハ有效ナリヤ否ヤノ問題ナリ普通ノ取引ニ於テハ債權者ハ債務ノ本旨ニ違ヒタル履行ヲ受クルノ義務ナク一部支拂ハ當然之ヲ拒絶シ得ヘキナリ然リト雖モ手形ハ之ト其趣ヲ異ニシ全ク引受ナクシテ一部ノ支拂アル場合又ハ最初引受ケタル一部ノ金額ニ付キ支拂アル場合ハ勿論全部ニ付キ引受アリ而シテ其一部ノ支拂アル場合ト雖モ之ヲ拒絶スルコトヲ得サルナリ蓋シ既ニ一部引受ノ原則ヲ是認シタル以上ハ一部ノ支拂モ亦之ヲ認ムルコト當然ニシテ殊ニ手形不渡ノ結果ニ付テハ振出人、裏書人共ニ其責ニ任スヘキモノニシテ支拂ノ有無ハ其關係スル所大ナルモノナルカ故ニ所持人ニ左程ノ不利益ヲ被ラシメサル限ハ一部ノ支拂モ亦之ヲ有效トシテ其部分ニ付テ手形關係ヲ消滅セシムルハ至當ノ規定ト謂ハサルヘカラス此一部支拂ニ絶對ノ效力ヲ付與スルハ歐洲諸國ノ法律カ一般ニ認ムル所ナリ(第四八四條第一項)

支拂ノ效力ハ其支拂アリタル限度ニ於テ既存ノ手形關係ヲ消滅セシムルモノナリ然レトモ其之ヲ消滅セシムルハ其支拂カ法ノ定ムル手續ニ依リタルモノナルコトヲ要ス手形ノ引渡ヲ受ケスシテ支拂ヲ爲スカ如キハ再ヒ支拂ノ請求ニ遭遇スヘキ危險ヲ冒スモノニシテ未タ手形債務ヲ完全ニ消滅セシムルノ效力ナシ何トナレハ支拂拒絶證書作成期間ノ經過セサル間ニ於テ善意ニ其手形ヲ取得シタル者ハ其前者ノ權利ノ缺損ニ關係ナク獨立ニ完全ナル手形上ノ權利ヲ取得スヘケレハナリ手形ト引換ニ非サレハ支拂ヲ爲スヲ要セサルコト支拂ヲ爲シタル場合ニハ所持人ヲシテ手形ニ其支拂ヲ受ケタル旨ヲ記載セシメ

且之ニ署名セシメ得ルコト並ニ一部支拂ノ場合ニハ所持人ヲシテ手形ニ其旨ヲ記載シ且其謄本ヲ作リ署名ノ後之ヲ交付セシムヘキコトハ第四百八十三條及ヒ第四百八十四條第二項ノ規定スル所ニシテ是レ皆如上ノ主旨ニ基キタルモノナリ又支拂カ支拂トシテ完全ノ效力ヲ生スルニハ必スシモ其支拂カ眞正ノ手形所持人ニ對シテ爲サレタルコトヲ必要トセサルモ其眞正ナラサル所持人ニ爲シタル支拂ニ付キ支拂ヲ爲シタル者ニ惡意又ハ重大ナル過失アリタルトキハ其效力ヲ生セサルナリ(第一條、民法第四七〇條)

茲ニ一言注意スヘキハ民法第四百七十條ト商法第四百四十一條トノ關係ナリ商法第四百四十一條ハ竊取又ハ紛失、遺失セラレタル手形ヲ其竊取者、拾得者ヨリ惡意又ハ重大ノ過失ナクシテ裏書(記名式、指圖式ナラハ)引渡(無記名式ナラハ)等ニ依リテ取得シタル者ニ完全ナル手形上ノ權利ヲ認メ居ルヲ以テ斯ル善意ノ手形取得者ニ對シテハ引受人ハ縱令其手形カ竊取セラレ又ハ遺失、紛失セラレタルモノナルコトヲ知ルニモセヨ義務トシテ支拂ヲ爲スヘキ責任アリ隨テ其支拂ノ有效ナルハ勿論ニシテ斯ル場合ニハ民法第四百七十條ハ適用セラレ得サルナリ此惡意又ハ重大ナル過失ニ關スル同法文ノ適用アルハ重ニ手形ノ竊取者拾得者ニ對シテ支拂ヲ爲ス場合ニ在リト知ルヘシ

第六節　償還ノ請求

手形ノ引受人、支拂人又ハ支拂擔當者カ所持人ヨリ正當ノ場所ニ於テ支拂ノ爲メニ手形ヲ呈示セラレタル場合ニ直チニ支拂ヲ爲シタルトキ既存ノ手形關係ハ總テ之ニ因リテ消滅スルコトハ前節ニ於テ之ヲ述ヘタリ本節ニ於テ説明セントスルモノハ手形カ此順當ナル經過ヲ經サリシトキ即チ支拂カ拒絶セラレタル時ニ生スル善後策ニ關スル問題ナリ引受ノ請求ハ支拂ノ請求ト異ナリ其請求ヲ爲スト否トハ原則トシテ手形ノ支拂ニ何等ノ影響ヲ及ホスモノニ非サルヲ以テ所持人ハ其手形ニ信用ヲ置キ得ル限ハ強テ引受ヲ求ムル必要モナカルヘク隨テ引受拒絶ノ結果タル擔保ノ請求ハ手形取引ノ上ニ於テ必スシモ生スヘキ問題ニ非スト雖モ支拂ハ手形ノ最終ノ目的ニシテ必ス其請求ヲ見ルヘキモノナルヲ以テ其請求ノ拒絶ニ伴フ償還請求ノ問題ハ特ニ注意シテ其研究

ヲ爲スノ必要アリ然レトモ時ノ許サヽルモノアルカ故ニ茲ニハ其大要ヲ述フルニ止ムヘシ

手形上ノ債務ハ手形ニ署名ヲ要件トセル特定ノ行爲ヲ爲スニ非サレハ發生スルコトナシ隨テ未タ引受ヲ爲サヽル支拂人カ支拂ヲ拒絶スルコトアルヘキハ勿論引受人ト雖モ亦必スシモ手形ノ呈示ヲ受クルト同時ニ支拂ヲ爲スモノト謂フヲ得ス其何レノ場合ニ於テモ手形ノ呈示ニ對シテ即時ニ支拂ヲ得サルトキハ所持人ハ其前者即チ裏書人及ヒ振出人ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得而シテ裏書人ハ此償還ノ請求ニ應スヘキ義務者タルト共ニ其前者タル裏書人及ヒ振出人ニ對シテハ所持人ト等シク償還ノ請求ヲ爲シ得ヘキ地位ニ立ツ者ナリ然レトモ振出人ハ最終ノ償還義務者ニシテ自己ニ對スル擔保義務者ヲ有スルコトナシ固ヨリ振出人カ其償還義務ヲ履行シタルトキハ若シ引受人アラハ之ニ對シテ支拂ヲ請求シ得ヘキモ引受人ハ主タル手形債務者ニシテ振出人カ之ニ對シテ有スル第四百七十一條ノ權利ハ償還請求權ト稱スヘキモノニ非サルヲ以テ振出人ハ所謂償還請求權利者中ニ包含セラレサルナリ(參加支拂人及ヒ保證人ハ償還ノ請求ヲ爲シ得ル者ナルモ开ハ後ニ至リテ説明スヘシ)

第一　償還請求ノ條件

所持人及ヒ裏書人カ償還請求權ヲ保全シ之ヲ行使スルニ付テハ擔保請求ノ場合ニ於ケルト等シク一定ノ手續ヲ踐行スルコトヲ要ス

(甲)　所持人ニ關スル場合　元來償還請求權ハ正當ノ時期ニ正當ノ場所ニ於テ支拂ヲ爲スヘキ地位ニ在ル者ニ手形ヲ呈示シテ支拂ヲ求メ其支拂ナカリシ場合ニ始メテ之ヲ行使シ得ヘキモノナルコト前陳セルカ如シ故ニ(1)適法ニ手形ヲ呈示シタルコト(2)其呈示ニ對シテ支拂ヲ得サリシコトカ償還請求權ヲ保全シ行使スルノ必要條件ヲ成スハ勿論ニシテ此適法ナル呈示ニ付テハ曩ニ支拂ノ請求ニ關シテ既ニ説明シタル所アルヲ以テ重ネテ之ヲ説クヲ省キ茲ニハ其支拂カ拒絶セラレタル後ニ於ケル手續ニ付テ説明スルノミ

所持人ハ滿期日及ヒ其後ノ二日内ニ拒絶證書ヲ作ラシメ且拒絶證書作成ノ翌日マテニ其前者ニ對シテ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス尙ホ手形ニ豫備支拂人又ハ參加引受人アルトキハ其請求ノ通知ヲ發スル前之ニ對シテ或手續

ヲ爲スヘキ必要アルモ講義ノ煩雜ヲ避ケンカ爲メ开ハ參加支拂ノ節ニ至リテ之ヲ述フヘシ(第五〇八條參照)

(乙) 裏書人ニ關スル場合　裏書人ニシテ其後者ヨリ償還ノ請求ヲ受ケタルトキハ自己ノ前者ニ對シテ自己カ通知ヲ受ケタル日ノ翌日マテニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

此ノ如ク正當ナル期間内ニ拒絶證書ヲ作ラシムルコト竝ニ償還請求ノ通知ヲ發スルコトハ是レ亦償還請求權ヲ保全シ之ヲ行使スルニ付キ必要オル條件ヲ成スモノニシテ其手續ヲ缺クトキハ之カ爲メニ所持人又ハ裏書人ハ其前者ニ對スル償還請求權ヲ失フノ結果ヲ生ス(第四八七條、第四八八條、第四九〇條)

支拂拒絶證書ノ作成ハ之ニ依リテ適法ナル手形ノ呈示及ヒ支拂拒絶ノ事實ヲ說明セシメ果シテ所持人カ償還請求權ヲ行使スルコトヲ得ヘキ狀況ニ在リヤ否ヤヲ明確ナラシムルカ爲メニシテ畢竟償還義務者ヲ保護スルカ爲メノ規定ニ外ナラサルカ故ニ其義務者ニシテ拒絶證書ノ作成ヲ必要トセス所持人ノ陳述ニ信賴シテ其義務ヲ履行セントスル場合ニハ毫モ所持人ニ之カ作成ヲ强フルノ必要ナキナリ故ニ法ハ特ニ之ニ關スル規定ヲ爲シ支拂拒絶證書ノ作成ヲ免除シタル者ニ對シテハ之ヲ作ラシメサリシトキト雖モ手形上ノ權利ヲ失フコトナシトセリ尤モ所持人カ拒絶證書ヲ作ラシメスシテ償還請求ノ權利ヲ主張シ得ヘキハ唯其作成免除者ニ對スル關係ニ於テノミ然ルモノニシテ其作成ヲ免除セサル自餘ノ償還義務者ニ對シテハ仍ホ依然トシテ其作成ヲ必要トスルモノナルカ故ニ所持人カ此作成免除者以外ニ償還義務者ヲ有シ而モ之ヲシテ償還ヲ爲サシメント欲スル場合ニハ之ニ對スル關係上拒絶證書ヲ作ラシメサルヘカラス隨テ拒絶證書作成ノ免除ハ所持人ヨリ之ヲ免除者ニ對抗シ得ヘキハ前陳セルカ如キモ之ヲ以テ所持人ヲ拘束スルヲ得スシテ所持人カ之ヲ作ラシメタルトキハ其作成免除者ト雖モ其費用ノ負擔ヲ免ルルコトヲ得サルナリ(第四八九條)故ニ拒絶證書作成ノ免除ハ支拂拒絶ノ場合ニ其證書ノ作成ニ要スル費用ノ免責ヲ其主タル目的ト爲スモノナルモ其實殆ト效益ナキノミナラス其免除者ハ免除ヲ爲シタル爲メニ時トシテハ其前者ニ對シ償還請求權ヲ行使シ得サルノ不利益ヲ被ルコトアリ何トナレハ償還義務ノ履行ハ一般ニ拒絶

證書ノ作成ヲ條件トスルモノニシテ其作成ヲ免除セサル前者ハ自己ニ對シ償還ノ請求ヲ爲ス者カ拒絶證書ニ依リテ其權利ヲ行使シ得ヘキ條件ノ到來シタルコトヲ證明スルニ非サレハ其義務ヲ履行スルノ必要ナキモノナルヲ以テ若シ其作成免除者カ本條ノ規定ニ依リ拒絶證書ノ作成ナクシテ償還義務ヲ履行シタルトキハ自己ノ前者ニ對シテ更ニ償還請求權ヲ行使シ得サルノ結果ヲ生スヘケレハナリ(第四九五條參照)

此支拂拒絶證書作成ノ免除ニ關シテ生スル二箇ノ疑問アリ一ハ其作成ヲ免除シタル者ニ對スル償還請求權ノ時效ノ期間及ヒ起算點如何ノ問題ニシテ他ハ其免除者ニ對シテ償還請求ノ通知ヲ發スヘキ時期如何ノ問題ナリトス

第一問ニ對シテハ少クトモ手形所持人カ特ニ拒絶證書ヲ作ラシメタル場合ニハ第四百四十三條カ適用セラレ時效ハ其作成ノ日ヨリ進行シ六箇月ニテ完成スルモノト謂フヲ得ヘシ尤モ手形所持人ノ拒絶證書作成免除者ニ對スル償還請求權ノ時效ニ付テハ率直ニ言ヘハ別段ノ規定ヲ設クルカ至當ニシテ之ニ第四百四十三條ノ適用アリト云フハ多少ノ批難アルヲ免レサルヘシト雖モ手形法カ手形上ノ權利ノ時效ニ付キ特別ノ制度ヲ設ケ之ニ關スル唯一ノ法則トシタル此第四百四十三條ノ規定ヲ爲シタル以上ハ手形權利ニ關スル時效問題ハ總テ同條ニ依リテ之ヲ決定セサルヘカラス故ニ手形所持人カ特ニ拒絶證書ヲ作ラシメタルトキハ其免除者ニ對スル關係ニ於テモ時效ハ其作成ノ日ヨリ進行ストハサルヘカラス然ラハ拒絶證書ヲ作ラシメサリシ場合ハ如何之ニ付テハ或ハ說ヲ爲ス者アリ曰ク此場合ニ第四百四十三條ヲ適用セントスルモ同條ハ拒絶證書ノ作成ヲ條件トシテ規定ヲ爲シ居ルモノナルカ故ニ到底之ヲ此場合ニ適用スル能ハス隨テ一般ノ時效即チ第二百八十五條ノ時效規定ヲ適用セサルヘカラスト然レトモ前述セルカ如ク所持人カ特ニ拒絶證書ヲ作成セシメタル場合ニハ其免除者ニ對スル關係ニ於テモ第四百四十三條ノ適用アリトノ所論ヲ是ナリトセハ縱令之ヲ作成セシメサリシトキニモ亦同條カ適用セラレ其時效期間ハ六箇月ナリト論結セサルヘカラス拒絶證書作成ノ有無ニ由リテ兩者ノ間ニ區別ヲ爲スノ理由ヲ發見スル能ハス然ラハ其起算日ハ如何ト云フニ予輩ノ所信ニ據レハ拒絶證書ノ作成アリタルトキハ其作成ノ日ヨリ起算ス

へキモノナルヲ以テ其作成ナカリシトキハ作成期間ノ滿了シタル時ヲ以テ時效ノ起算點ト爲スヲ最モ至當ナリト信ス何トナレハ普通ノ場合ニ於テ法カ拒絕證書ヲ作成シタル日ヨリ時效ヲ起算スヘキモノト爲シ而モ其作成ニ付キ滿期日後二日間ノ猶豫ヲ與ヘ居ルヨリ推考スルニ手形所持人ハ滿期日ノ到來ト同時ニ直チニ拒絕證書ヲ作成セシメテ其權利ヲ行使シ得ヘキニ拘ハラス此期間ノ滿了スルマテハ此手續ヲ盡シテ權利ヲ行使セサレハトテ之ニ對シテ法ハ未タ權利不行使ノ怠慢アリト認メ居ラサルモノト謂ヒ得ヘキヲ以テ時效ノ一要素タル權利不行使ノ事實ハ手形法上ノ關係ニ於テハ普通支拂拒絕證書作成期間滿了ノ時ヨリ發生スルヲ以テ其原則ト爲シ居ルモノト謂ハサルヘカラス故ニ本問ノ場合ニ於テモ拒絕證書ヲ作ラシメサリシトキニハ之ヲ作ラシムヘカリシ時即チ期間滿了ノ時ヨリ權利不行使ノ怠慢ヲ生シ隨テ時效ハ此時ヨリ進行スルモノト解スルヲ最モ穩當ナリト信ス

又第二問ニ對シテハ其前提トシテ支拂拒絕證書作成ノ免除ハ償還請求ノ通知ノ免除ヲモ包含スルヤ否ヤノ問題ヲ決定スルノ必要アリト雖モ償還請求ノ通

查會ニ於テ未タ確定セサルトキハ異議ノ申立ニ因リ又ハ既ニ確定シタルトキハ確定シタル請求ニ對スル異議ノ訴ニ因リ(民事訴訟法第五四五條)消滅シタル旨ヲ主張シ解除條件附權利者ニ配當額ヲ給付シタルトキハ不當辨濟トシテ給付額ヲ破產財團ノ爲メニ取戻ササルヘカラス之ニ反シ解除條件カ破產手續ノ終局以後ニ成就シタルトキハ解除條件附債權者ノ破產手續ニ於ケル主張ニ因リ配當額上ニ於テ損害ヲ受ケタル各破產債權者ハ條件附權利者ニ對シ求償權ヲ有ス解除條件カ成就シタルモ當事者カ之ヲ知ラサル間ハ仍ホ解除條件附權利トシテ之ヲ主張スルヲ妨ケラルルコトナカルヘシ(民法第一三一條參照)停止條件附權利亦破產債權トシテ全額ニ付キ破產手續ニ於テ主張スルコトヲ得何トナレハ停止條件附權利者ハ條件ノ成否未定ノ間ニ於テモ單ニ將來權利ヲ取得スヘキ事實上ノ期望ヲ有スルニ止マラスシテ反テ法律上保護セラレ且處分スルコトヲ得ヘキ正當ナル權利取得ノ期望權(Hnnartschaftsrecht)ヲ有スルヲ以テ破產債權者タルニ足レハナリ然レトモ停止條件附權利者ハ停止條件ニ繫リタル權利ニ對スル配當額ヲ受取ルコトヲ得ス唯擔保ヲ立ツルコトヲ請求スルヲ得

ルノミ蓋シ停止條件ニ繋リタル權利其モノハ停止條件ノ成就前ニ於テハ未タ成立セサルヲ以テ停止條件附權利者ハ條件ノ成就ニ際シ其條件ニ繋リタル權利ノ目的ニ付キ滿足ヲ享クルニ必要ナル行爲ヲ爲スノ權利ヲ有スルニ過キサレハナリ換言スレハ停止條件附權利者ハ民法ノ規定ニ從ヒ無條件ナル擔保請求權ヲ有スレハナリ(民法第一二一九條「……保存……」)(獨逸破産法第六九條)停止條件附權利者カ其權利ヲ無條件ノ權利トシテ主張シタルトキハ債權調査會ニ於テ異議ヲ申立テ又其屆出權利ヲ商法第千二十七條ニ從ヒテ確定ス而シテ停止條件附權利ノ破産手續ニ於ケル主張ハ前述ノ如ク擔保ヲ請求スルニ過キサルヲ以テ配當額ハ之ヲ供託シテ保存セサルヘカラス此供託ヨリ生スル利息ハ當然破産財團ノ利益ニ歸ス停止條件カ成就シタルトキハ權利者ハ無條件ノ權利者ト爲ル隨テ配當額ノ支拂ヲ受クルニ至ルヘシ之ニ反シテ停止條件カ成就セサルトキハ權利カ民法上ノ原則ニ從ヒテ消滅ス隨テ破産手續ニ加入スルノ權利亦消滅ス故ニ保存セラレタル配當額ハ終局配當トシテ各破産債權者ニ配當セラル停止條件ノ成否カ數年間未定ナルトキハ破産手續ノ淹滯ヲ來スヤ當然ナリ當事者ハ斯ル弊害ヲ協議上避止スルコトヲ得ヘシ何トナレハ法律ハ斯ル協議ヲ禁止セサレハナリ獨逸破産法ニ於テハ停止條件ノ成就カ甚タ不確實ニシテ條件附權利カ財産的價格ヲ有セサルトキハ終局配當ヲ爲スニ際シ斯ル權利ヲ斟酌セサルコトヲ許シタリ(獨逸破産法第一五四條、第一六二條)立法上ノ見解トシテ正當ナリト認ム停止條件カ成就シタルモ當事者カ之ヲ知ラサル間ハ仍ホ停止條件附權利トシテ主張スヘキモノタリ(民法第一三一條參照)損害ノ賠償額ノ豫定ト推定スヘカラサル違約金ノ請求權即チ債權者ニ損害ノ賠償ヲ容易ナラシムルカ爲メニ約定シタルニ非スシテ反テ債務ノ履行ヲ確實ナラシムルカ爲メニ約定シタル過怠罰ノ請求權ハ其發生カ債務ノ不履行ニ繋ルヲ以テ一ノ停止條件附權利タリ故ニ違約金ノ約定ヲ以テ履行ヲ擔保シタル債務カ債務者ノ財産ヲ以テスル給付ヲ目的トセサルトキ(勞務ヲ目的トスルトキ)即チ債務者ニ對スル權利カ破産債權ニ非サルトキハ違約金ノ請求權ヲ破産手續ニ於テ停止條件附債權トシテ主張スルコトヲ得ヘシ然レトモ違約金ノ約定ヲ以テ履行ヲ擔保シタル債務ニ對スル債權カ破産債權ナルトキハ違約金ノ請求權ヲ破産手

續ニ於テ主張スルコトヲ得ス蓋シ斯ル債務ハ管財人カ唯破産法ノ規定ニ從ヒテ履行スルニ因リテ違約金ヲ請求スルニ至ルコトナケレハナリ(第三)ニ破産宣告前ニ破産者ト共同シテ債務ヲ負フ者(不可分債務者及ヒ連帶債務者)、破産者ノ保證人及ヒ破産者ノ爲メニ擔保ヲ供シタル第三者(民法第三五一條、第三七二條)ハ其求償權ヲ求償義務者ノ破産ニ於テ債權者カ其債權全額ヲ破産債權トシテ主張セサルトキニ限リ債權者ニ辨濟ヲ爲ササル以前ニ於テ全額ニ付キ破産債權トシテ主張スルコトヲ得元來求償權ハ破産者ト其共同債務者、保證人及ヒ擔保ヲ供シタル第三者トノ間ニ存スル法律關係殊ニ委託、事務管理(民法第四百六十條カ主タル債務者ノ委託ヲ受ケテ保證債務ヲ負ヒタル者ニ限リ主タル債務者ノ破産ニ於テ豫メ求償權ヲ行フコトヲ得セシメタルハ狹キニ失ス)等ヲ原因トシテ發生シ債權者ニ對シ爲シタル辨濟ヲ原因トシテ發生シタルモノニ非ス故ニ該法律關係カ破産宣告前ニ存在スル以上ハ破産者ト共同シテ債務ヲ負フモ破産者ノ保證人及ヒ破産者ノ爲メニ擔保ヲ供シタル第三者カ其求償權ヲ破産債權トシテ主張スルコトヲ得ルハ當然ナリ求償權ノ實行ハ債權者ニ辨濟ヲ爲シタル事實ヲ前提要件トス故ニ破産者ノ共同債務者、保證人及ヒ破産者ノ爲メニ擔保ヲ供シタル第三者ノ破産者ニ對シテ有スル求償權ハ債權者ニ未タ辨濟ヲ爲ササル以前ニ於テハ殆ト停止條件附權利ト其法律的狀態ヲ同シウス換言スレハ求償權ノ實行ハ債權者ニ對シテ爲ス辨濟ナル法定條件ノ成就ニ繋ルト謂フコトヲ得ヘシ(「フッチング」氏ハ法定條件附請求權ト云ヘリ)然レトモ民法ノ意味ニ於ケル條件附權利ニ非スシテ反テ實行未定ノ權利(Eventuelle Recht)タルノ性質ヲ有ス何トナレハ求償權ハ債權者ニ爲ス辨濟前ニ既ニ發生シ且辨濟ナル前提要件ハ法律ニ因リ定マリ條件ノ如ク當事者カ法律行爲ニ於テ自由ニ定ムルモノニ非サレハナリ此ノ如ク債權者ニ未タ辨濟ヲ爲ササル求償權ハ停止條件附權利ト其法律的狀態ヲ同シウスルヲ以テ斯ル權利者ハ求償義務者ノ破産ニ於テ停止條件附權利者ト同シク唯擔保ヲ立ツルコトヲ求ムルヲ得ルノミ(獨逸破産法ニ於テハ求償權カ同破産法第六十七條ニ規定セル停止條件附權利ニ屬スルコトハ學説上一致セル所ナリ)又求償權者ハ債權者カ其權利ヲ破産債權トシテ主張シタルトキハ求償權ヲ破産債權トシテ主張スルコトヲ得ス蓋

シ求償義務ヲ負フ破産者ノ債務ハ實體上唯一ニシテ債權者若クハ求償權者ニ對シ辨濟ヲ爲スヲ以テ足ルモノナレハ破産者ハ同一債務ニ付キ二重ノ給付ヲ爲スコトヲ要セサレハナリ(債權者カ其債權ヲ破産手續ニ於テ主張シタル場合ニ於テモ仍ホ求償權ヲ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得ヘシトノ反對說ハ「フッチング」氏等ノ主張スル所ナレトモ我民法第四百六十條第一項第一號ノ趣意ニ反スルヲ以テ我破産法ノ解釋トシテ主張スルコトヲ得サルヘシ)故ニ債權者ノ屆出アルニ拘ハラス求償權者カ其權利ヲ破産債權トシテ屆出テタルトキハ管財人及ヒ債權者ハ債權調査會ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得又屆出テタル求償權ハ債權者カ破産手續ニ參加シタル場合ニ於テ效力ヲ喪失ストノ制限ノ下ニ於テ確定スト謂ハサルヲ得ス(以上ノ法則ハ數人ノ保證人アル場合ニ於テ其或者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキニモ行ハルルコトハ民法第四百六十五條ニ依リ疑ヲ容レス)手形ノ引受人カ其爲シタル引受ニ基キテ支拂フヘキ金額ニ付キ振出人ニ對シテ有スル民法上ノ賠償請求權ハ委託ニ基キ保證債務ヲ負ヒタル者カ主タル債務者ニ對シテ有スル求償權ト其性質ヲ異ニセサルヲ以テ引受人カ未タ支拂ヲ爲ササルトキト雖モ振出人ノ破産ニ於テ全額ニ付キ破産債權トシテ之ヲ主張スルコトヲ得破産手續開始前ニ於ケル起訴其他費用賠償ノ義務ヲ發生セシムル當事者ノ一方ノ行爲ニ因リテ他ノ一方ニ生シタル民事ノ訴訟費用賠償權ハ其費用負擔者カ未タ確定判決ニテ確定セラレサル場合ト雖モ當事者ノ一方ノ破産ニ於テ破産債權トシテ全額ニ付キ之ヲ主張スルコトヲ得何トナレハ訴訟費用ノ賠償權ハ該費用ヲ必要ト爲ス行爲ヲ爲スニ因リテ成立スルモノニシテ判決ニ因リテ成立スルモノニ非ス判決ハ唯訴訟費用ヲ負擔スヘキ當事者ヲ確定スルニ過キス隨テ破産者タル當事者ニ訴訟費用ヲ負擔セシムル旨ノ判決カ破産宣告後ニ言渡サレ若クハ確定スル場合ニ於テモ苟モ訴訟費用ノ賠償義務ヲ發生セシムル行爲カ破産宣告前ニ存スル以上ハ該訴訟費用賠償權ハ破産宣告前ニ成立セリト謂ハサルヲ得サレハナリ而シテ破産者ノ訴訟費用賠償義務ヲ確定スル確定判決カ破産宣告ノ當時ニ於テ未タ存セサル場合ニ於テハ訴訟費用賠償權ノ實行ハ該判決ノ確定ヲ條件ト爲スハ言ヲ俟タス(法定ノ條件ニシテ民法上ノ停止條件ニ非ス)故ニ該賠償權ヲ有スル當事者

ハ求償權者ト同シク唯擔保ヲ立ツルコトヲ請求スルコトヲ得ルノミ該條件ハ解後破産者カ唯確定判決ヲ以テ費用負擔ヲ命セラレタルニ因リテノミ成就スルモノタリ何トナレハ破産者ノ約定上ノ引受ハ破産債權者ニ對シ無效ナレハナリ故ニ破産手續ニ依リ中斷セラレサル訴訟(例ヘハ離婚ノ訴訟)ニ關シテハ之ヲ續行シテ又破産手續ニ依リ中斷セラレタル訴訟ニ關シテハ管財人カ受繼ヲ爲ササル場合ニ限リ破産者ヨリ又ハ破産者ニ對シテ受繼シテ訴訟費用負擔ノ確定判決ヲ受ク隨テ管財人カ破産手續ノ開始ニ因リ中斷セラレタル訴訟ヲ受理シ訴訟費用ノ負擔ヲ命セラレタルトキハ總訴訟費用カ財團債權ト爲リ(商法第一〇三二條第一項第一號)破産債權ト爲ラス又破産者カ破産宣告後ニ於テ爲シタル訴訟行爲(和解、認諾、取下等)ニ因リテ訴訟費用ヲ負擔スルニ至リタルトキハ總訴訟費用カ破産者ニ對スル權利ト爲リ破産債權ト爲ラス(破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得サル財産權若クハ破産手續ニ於テ主張セサル財産權殊ニ債權者カ繫屬訴訟ヲ破産者ニ對シテ續行シ破産手續ニ參加スル權利ヲ抛棄シタル場合ニ於テ該訴訟物ニ關スル訴訟費用ハ破産債權トシテ主張スルコトヲ得

要スルニ抗告ヲ爲シ得ヘキ裁判ハ抗告ニ依ル裁判ノ確定若クハ不變期間ノ經過ニ至ルマテ確定ヲ停止ス

執行停止ノ效力ハ抗告ニ付テハ例外トシテ發生シ原則トシテハ執行停止ノ效力ヲ有セス特ニ法律ノ規定アル場合ニ限リ執行停止ノ效力ヲ有ス(第四六〇條第一項)特別ノ規定アル場合トハ第二百九十四條、第三百二條、第三百二十八條等ナリ故ニ其他ノ場合ニ於テハ抗告アルモ其裁判ニ基ク手續ヲ進行スルコトヲ得ヘシ然レトモ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長ハ抗告ニ付テノ裁判アルマテ其裁判ノ執行中止ヲ命スルコトヲ得ヘク又抗告裁判所ハ抗告ニ付テノ裁判ヲ爲ス以前ニ於テ自由ナル意見ニ依リ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ執行中止ヲ命スルコトヲ得ルモノナリ(第四六〇條第二項、第三項)

第二　移審ノ效力

抗告ノ提起アリタルトキハ其提起ヲ爲シタル裁判ニ由リテ裁判セラレタル目的物ノ全部ヲ抗告審ニ繫屬セシム抗告ハ相手方ニ對スルモノニ非サルヲ以テ抗告人ノ抗告ヲ相手方カ使用シ附帶抗告ヲ爲スコトヲ得ス抗告裁判所ハ原裁

判ニ對シ不服申立アリタル範圍內ニ於テ原裁判ノ當否ヲ審査スヘキモノナリ移審ノ效力ハ抗告ノ取下又ハ抗告裁判所ノ裁判ノ確定ニ因リテ消滅ス

以上述ヘタル二箇ノ效力ハ抗告ノ提起アリタルトキハ形式上發生シ抗告カ適法ナリシトキハ完全ニ效力ヲ生スルコトハ控訴、上告ト同一ナリトス

第七節　抗告審ノ手續

第一　抗告ハ抗告狀ノ提出若クハ口頭ヲ以テ提起シタル場合ニ其手續ヲ開始スルモノトス(第四五七條)

第二　抗告ノ提起アリタルトキハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ爲シタル裁判所又ハ裁判長カ再度ノ考案若クハ新ナル提供ニ基キテ其抗告ヲ理由アリト認メタルトキハ其不服ノ點ヲ更正シテ更ニ裁判ヲ爲シ若シ抗告ヲ理由ナキモノト認メタルトキハ裁判所又ハ裁判長ハ其意見ヲ付シテ三日ノ期間內ニ抗告ヲ抗告裁判所ニ送付シ又適當トスル場合ニ於テハ其事件ニ關スル訴訟記錄ヲ抗告裁判所ニ送付スヘシ(第四五九條)

第三　當事者カ抗告ヲ急迫ナリト認メテ抗告裁判所ニ提起シタルトキハ抗告裁判所ハ直チニ裁判ヲ爲スコトヲ得ヘク又ハ其裁判ヲ爲ス以前ニ於テ不服ヲ申立テラレタル裁判所又ハ裁判長ノ意見ヲ求メ且訴訟記錄ノ送付ヲ要求スルコトヲ得抗告裁判所カ事件ヲ急迫ナラスト認メタルトキハ原裁判所又ハ原裁判長ニ抗告ヲ送付シ且其旨ヲ抗告人ニ通知スヘシ(第四六一條)原裁判所若クハ裁判長カ事件ノ送付ヲ受ケタルトキハ第二ニ述ヘタル所ト同一ノ手續ヲ爲スヘシ

第四　受命判事若クハ受託判事ノ裁判又ハ裁判所書記ノ處分ノ變更ヲ求ムルニハ受訴裁判所ノ裁判ヲ求メテ其裁判ニ付キ不服ナルトキハ抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ大審院ニ於テ受命判事又ハ受託判事ノ裁判、裁判所書記ノ處分ノ變更ヲ求ムルニハ大審院ノ裁判ヲ受クルコトヲ得(第四六五條)

第五　抗告裁判所ハ抗告ノ申立ニ付テハ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スヲ通例トス唯抗告人ト反對ノ利害關係ヲ有スル者ニ抗告アリタルコトヲ通知シテ書面上ノ陳述ヲ爲サシムルコトヲ得ヘシ利害關係人ハ之ニ對シテ陳述ヲ爲ス

ノ義務ナク自己ノ意思ニ依リテ陳述ヲ為スモ然ラサルモ隨意ナリ而シテ利害關係人ノ陳述ハ抗告カ口頭ヲ以テ為シ得ヘキ場合ナルトキハ亦口頭ヲ以テ為スコトヲ得ヘシ利害關係人ハ裁判所ノ命ニ應シテ陳述ヲ為シタルトキハ其陳述ヲ為シタル事項ハ抗告ニ付テノ訴訟材料ト為リ若シ陳述ヲ為ササル場合ニ於テハ抗告人ノ提出シタル材料ノミニ依リテ裁判ヲ為スコトヲ得ルモノナリ而シテ抗告裁判所ハ口頭辯論ヲ經テ抗告ヲ審理スヘキコトヲ至當ト認メタルトキハ抗告人及ヒ反對ノ利害關係人ヲ當事者ト為シ口頭辯論ヲ為スヘキ旨ヲ命シ期日ヲ定メテ當事者ヲ呼出スコトヲ得ルモノトス(第四六二條)此場合ニ於ケル口頭辯論ハ任意的ノ口頭辯論ナルヲ以テ當事者雙方辯論期日ニ出頭セサルモ其手續ハ休止ト為ルモノニ非ス抗告ハ裁判所カ職權ヲ以テ完結スヘキ義務アルモノナレハ當事者カ辯論ヲ為スト否トニ關セス又利害關係人カ陳述ヲ為スト否トニ關セス職權ヲ以テ終結スヘク故ニ辯論若クハ陳述ノ命ニ從ハサルトキハ書面上ノ材料ノミニ依リテ判斷スヘキモノナリ

第六　抗告ハ原裁判所ニ提出セサリシ新ナル事實及ヒ證據方法ヲ以テ其憑據ト為スコトヲ得ヘシ(第四五八條)

第七　抗告ノ提起アリタルトキハ抗告裁判所ハ抗告ヲ許スヘキヤ否ヤ法式ニ從ヒ若クハ其期間ニ於テ提出シタルヤ否ヤヲ職權ヲ以テ調査シ其要件ノ一ヲ缺クトキハ抗告ヲ不適法トシテ棄却ス(第四六三條)抗告カ適法ナルモ實體上理由ナキトキハ之ヲ棄却シ適法ニシテ且理由アルトキハ抗告裁判所ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ為シタル裁判所又ハ裁判長ニ委任シテ裁判ヲ為サシムルコトヲ得ヘク或ハ原裁判ヲ廢棄シ更ニ自ラ裁判ヲ為スコトヲ得ヘシ抗告裁判所ノ裁判ハ不服ヲ申立テラレタル裁判ヲ為シタル裁判所又ハ裁判長ニ通知スヘシ(第四六四條)

第二編　再審

第一章　總說

再審トハ確定ノ終局判決ニ因リテ終了シタル訴訟手續ヲ更新シテ其判決ノ當否ヲ審査スル手續ヲ謂フモノナリ故ニ再審ハ一事不再理ノ原則ノ一例外タリ

又再審ハ下級裁判所ノ判決ノ當否ヲ上級裁判所ニ於テ審査スルモノニ非スシテ確定判決ヲ爲シタル裁判所カ再ヒ其判決ノ當否ヲ審理スルモノナルヲ以テ上訴ニ非ス隨テ再審ノ訴アルモ控訴、上告ノ如ク停止ノ效力、移審ノ效力ヲ生セス再審ヲ求メラレタル終局判決ハ之ヲ執行スルコトヲ得ヘク唯第五百條ノ規定ニ依リテ執行停止ヲ爲スコトヲ得ルノミナリ又再審ハ終局判決ヲ爲シタル裁判所ニ於テ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲スモノナレハ移審ノ效力ヲ生セサルナリ或ハ非常上訴ト云フ説アレトモ上訴トハ全ク其性質ヲ異ニスルモノト謂ハサルヘカラス

第一　再審ノ訴ニ二種アリ一ヲ取消ノ訴ト謂ヒ二ヲ原狀回復ノ訴ト謂フ取消ノ訴ハ確定判決カ訴訟手續ニ關スル法則ニ違背シタル手續ニ基キタルコトヲ理由トスルモノニシテ原狀回復ノ訴ハ確定判決ノ基本ト爲リタル實體ニ不法アルコトヲ理由トスルモノナリ此二ノ訴ハ共ニ私法上ノ請求ノ承認ヲ求ムルカ爲メ裁判所ニ提起スル訴ニ非スシテ控訴、上告ノ如ク訴訟手續ヲ更新シ不服ヲ申立テラレタル判決ノ當否ヲ審査シ不當ナル場合ニ於テハ之ヲ廢棄シテ更ニ正當ナル判決ヲ求ムルノ方法ナリトス而シテ曩ニ繫屬シタル訴訟ト別種ノモノニ非スシテ前ニ確定ノ終局判決ニ因リテ終了シタル訴訟ノ一部ナルヲ以テ全訴訟ノ受訴裁判所即チ再審ノ訴ニ因リテ不服ヲ申立テラレタル確定判決ヲ爲シタル裁判所カ再審ノ訴ニ付テ專屬管轄權ヲ有スルモノナリ（第四七二條）然レトモ闕席判決ニ對スル故障ノ如ク不服アル判決ヲ爲シタル審級ノ一部ヲ爲スモノニ非ス反テ控訴、上告ノ如ク新ナル審級ヲ開始スルナリ換言スレハ再審ノ訴ニ因リテ更ニ全訴訟ノ全部ニ付テ審理ヲ爲スニ非スシテ不服申立アリタル判決及ヒ其基本タル訴訟手續ノ不服アル部分ニ付テ審理スルモノニシテ其審理ハ不服申立ノ範圍內ニ止マルモノナリ而シテ附帶ノ再審ハ法律ニ之ヲ許ス規定ナキヲ以テ提起スルコトヲ得ス相手方ハ獨立シテ再審ノ訴ヲ提起セサレハ再審ヲ求ムルコトヲ得サルモノナリ

第二　再審ノ訴ハ確定シタル終局判決ニノミ對シテ之ヲ提起スルコトヲ得故ニ確定ノ終局判決ナルトキハ全部判決タルト一分判決タルトヲ問ハス又對審判決タルト闕席判決タルトヲ問ハス尙ホ又控訴裁判所ノ差戻ノ判決タルト上

告裁判所ノ差戻若クハ移送ノ判決タルトヲ問ハス之ニ對シテ再審ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ルモノナリ而シテ妨訴抗辯棄却ノ中間判決、請求ノ原因ヲ正當ナリトスル中間判決等ハ再審ノ訴ヲ提起スルコトヲ得サルモノトス何トナレハ此等ノ中間判決ハ上訴ニ關シテノミ終局判決ト看做スヘキモノナルヲ以テ再審ニ付テ終局判決ト看做スコトヲ得サレハナリ又普通ノ中間判決、決定、命令等ニ付テハ再審ノ訴ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス然レトモ再審ヲ求ムル確定判決前ニ於テ同一裁判所又ハ下級裁判所ニ於テ爲シタル裁判ニシテ終局判決ノ根據ト爲リタルモノニ對シテハ再審ノ訴ト共ニ不服ヲ主張スルコトヲ得ルモノナリ(第四七一條)

第三　再審ノ訴ニ付テハ管轄裁判所ハ確定ノ終局判決ヲ爲シタル裁判所ノ管轄ニ專屬ス(第四七二條)而シテ專屬管轄ナルヲ以テ合意ニ因リテ變更スルコトヲ得ス今左ニ各場合ニ付テ説明スヘシ

(一)　第一審裁判所カ爲シタル確定判決ニ對シ其判決確定後提起スルトキハ其訴ハ判決ヲ爲シタル第一審裁判所ノ專屬管轄ナリトス

(二)　控訴裁判所カ判決ヲ爲シ其判決確定セルトキハ再審ノ訴ニ付テノ管轄裁判所ハ左ノ如ク區別セサルヘカラス

(イ)　控訴裁判所カ控訴ヲ不適法トシテ棄却シタルトキ即チ事件ノ本案ニ立入リテ審理セスシテ控訴棄却ノ判決ヲ爲シタルトキハ一ノ訴訟事件ニ付キ二箇ノ判決存在スルモノナリ此場合ニ於テハ第一審ノ判決ニ付テ再審ヲ求ムルトキハ其訴ハ第一審裁判所ニ提起スヘク控訴棄却ノ判決ニ對シテ再審ヲ求ムルトキハ其訴ハ控訴裁判所ニ提起スヘキモノナリ

(ロ)　控訴裁判所カ控訴ヲ適法トシテ事件ノ實體ニ立入リテ審理裁判ヲ爲シ控訴ヲ理由ナシトシテ棄却シタルトキハ前ノ場合ト同シク二箇ノ判決存在ス控訴ヲ理由アリトシテ原裁判ヲ變更シタル場合ニ於テハ控訴審ノ判決ハ第一審ノ判決ニ代リタルモノナレハ其事件ニ付テハ控訴審ノ判決ノミ存スルヲ以テ其判決ニ對スル再審ノ訴ハ控訴裁判所ノ專屬管轄トス然レトモ第一審判決ノ一部ニ付キ不服申立アリテ控訴裁判所カ不服申立ノ部分ノミニ付テ判決ヲ爲シタルトキハ不服申立ナキ部分ニ付テハ控訴裁判所ハ判決ヲ爲

ササルモノナレハ其部分ニ對スル再審ノ訴ハ第一審裁判所ニ提起セサルヘカラス尤モ第一審ノ判決ト控訴審ノ判決ニ對シ同時ニ再審ノ訴ヲ提起スルトキハ控訴裁判所ヲ以テ專屬管轄裁判所ト爲ス(第四七二條第二項)

(ハ)控訴裁判所カ第四百二十二條、第四百二十三條ノ規定ニ從ヒ事件ヲ第一審裁判所ニ差戾シ第一審裁判所カ更ニ爲シタル判決ニ對シテ再審ヲ求ムルトキハ第一審裁判所ノ專屬管轄ニ屬シ差戾ノ判決ニ對シテ再審ヲ求ムルトキハ其訴ハ控訴裁判所ニ專屬ス

(三)上告裁判所カ判決ヲ爲シタル場合ニ於テハ次ノ如ク區別セサルヘカラス

(イ)上告裁判所カ本案ニ付キ判決ヲ爲サス上告ヲ不適法トシテ棄却シタルトキハ控訴棄却ノ場合ト同シク二箇ノ判決ヲ生シ上告裁判所及ヒ控訴裁判所ハ各自ノ爲シタル判決ニ對シ再審ノ訴ニ付キ專屬管轄權ヲ有ス

(ロ)上告裁判所カ上告ヲ理由ナシトシテ棄却シタルトキハ上告裁判所ノ判決ト控訴裁判所ノ判決トハ各獨立シテ存在スルモノナレハ二箇ノ判決ニ對シ各獨立シテ再審ヲ求ムルコトヲ得ヘク各裁判所各專屬管轄權ヲ有スルモノナリ

(ハ)上告裁判所カ控訴審ノ判決ヲ破毀シ事件ノ差戾又ハ移送ヲ爲シタルトキハ破毀セラレタル判決ハ消滅スト雖モ差戾又ハ移送ヲ受ケタル裁判所ハ更ニ判決ヲ爲スヘキヲ以テ隨テ上告審ノ判決ト控訴審ノ判決ト二箇ノ判決ヲ生ス此二箇ノ判決ニ對シテハ各裁判所ハ各專屬管轄權ヲ有ス

(ニ)上告裁判所カ原判決ヲ變更シテ更ニ自ラ裁判ヲ爲シタルトキハ控訴審ノ判決ハ消滅シ再審ヲ求ムルコトヲ得ル判決ハ唯上告裁判所ノ判決ノミナレハ其判決ニ對スル再審ノ訴ハ上告裁判所ノ專屬管轄ト爲ス

第二章　取消ノ訴

取消ノ訴ハ訴訟ニ關スル法則ニ違背シタル手續ニ因リテ爲シタル確定判決ニ對シテ提起スルコトヲ得ルモノニシテ次ニ述フル原因ニ基クコトヲ必要トス(第四六八條)

(一)規定ニ從ヒ判決裁判所ヲ構成セサリシトキ

(二) 法律ニ依リ職務ノ執行ヨリ除斥セラレタル判事カ裁判ニ參與シタルトキ但忌避ノ申請又ハ上訴ヲ以テ除斥ノ理由ヲ主張シタルモ其效力ナカリシトキハ此限ニ在ラス

(三) 判事カ忌避セラレ且忌避ノ申請カ理由アリト認メラレタルニ拘ハラス裁判ニ參與シタリシトキ

(四) 訴訟手續ニ於テ原告若クハ被告カ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサリシトキ

以上四ノ事由ヲ原因トスルトキニ限リ其訴訟ノ主タル當事者ヨリ管轄裁判所ニ再審ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ルモノナリ其各場合ニ付テノ說明ハ上告審ノ所ニ同シ而シテ右ノ中第一及ヒ第三ノ事由ヲ原因トスル取消ノ訴ハ其判決ニ對シテハ上訴又ハ故障ヲ提起シ得ヘキモノニシテ且當事者カ取消ノ原因ヲ知リ得ヘキモノナルトキハ取消ノ訴ヲ許ササルナリ何トナレハ此ノ如キ場合ニ於テハ當事者カ裁判ノ言渡ニ依リ少クモ上訴若クハ故障期間ノ經過前ニ知リ得ヘキ事項ナルヲ以テ其期間ヲ經過スルモ之カ爲メニ更ニ取消ノ訴ヲ許スノ必要ナキモノナリ

第三章　原狀回復ノ訴

原狀回復ノ訴ハ判決ノ實體ニ關スル不法ヲ理由トシテ確定判決ノ廢棄ヲ求ムルモノニシテ次ノ事項ノ一ヲ原因トスルコト必要ナリ(第四六九條)

(一) 刑法ニ揭ケタル職務上ノ義務ニ違背シタル罪ヲ訴訟ニ關シ犯シタル判事カ裁判ニ參與シタリシトキ　卽チ判事カ原狀回復ヲ求ムル當事者ニ對シテ刑法上ノ罪ヲ犯シタル場合ヲ謂フモノナリ刑法上ノ犯罪ニシテ職務ノ執行ニ因リ懲戒處分ニ付セラレタル場合ノ如キハ原狀回復ノ理由ト爲ルモノニ非ス刑法ノ罪ヲ犯シタルトキハ不利益ノ裁判ヲ爲シタルモノト認メ得ヘキヲ以テナリ

(二) 原告若クハ被告ノ法律上代理人若クハ訴訟代理人又ハ相手方若クハ其法律上代理人又ハ訴訟代理人カ罰セラルヘキ所爲ヲ訴訟ニ關シテ爲シタリシトキ　卽チ此等ノ者カ刑法上罰スヘキ罪ヲ訴訟ニ關シテ犯シタルトキハ誠實ナ

ル裁判ヲ爲シ得サリシモノト認メタルニ由ル

(三)　判決ノ憑據ト爲リタル證書カ僞造又ハ變造ナリシトキ　證書ハ公正證書ト私署證書ナルトヲ問ハス又證書ノ僞造、變造カ相手方ノ行爲タルト第三者ノ所爲タルトヲ問ハス其證書ニシテ判決ノ標準トシテ判決ニ援用セラレタル證書カ後日ニ至リ僞造若クハ變造ナリシコトヲ發見セラルル場合ニ於テハ再審ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ヘシ

(四)　證人若クハ鑑定人カ供述ニ因リ又ハ通事カ判決ノ憑據ト爲リタル通譯ニ因リ僞證ノ罪ヲ犯シタリシトキ　證人、鑑定人ハ當事者ノ申立ニ因リタルト職權ヲ以テ審問シタルトニ區別ナク判決ノ基本ト爲リタル供述若クハ通譯ニ付テ僞證罪ヲ犯シタルモノナルトキハ再審ノ原因ト爲ルヘシ唯通事ニ付テハ民事訴訟法上之ニ宣誓ヲ命シテ通譯セシムルノ規定存セサルヲ以テ通事ニ付テハ僞證罪ナキモノト謂フヘキナリ

(五)　判決ノ憑據ト爲リタル刑事上ノ判決カ他ノ確定ト爲リタル刑事上ノ判決ヲ以テ廢棄若クハ破毀セラレタリシトキ、　刑事ノ裁判ハ民事ノ裁判ヲ羈束スルモノニ非ス然レトモ民事裁判官カ自由心證ニ依リテ刑事上ノ判決ヲ採用シテ裁判ヲ爲シタルトキハ若シ其刑事ノ裁判カ未確定ノモノナルトキハ上訴ニ因リテ其判決ハ廢棄セラルルコトアルヘク又確定シタル刑事上ノ判決ニテモ刑事上ノ再審ノ訴ニ因リテ取消サルルコトアルヘシ此ノ如キ場合ニ於テハ民事ノ判決ニ付キ原狀回復ヲ許スト雖モ民事ノ裁判ハ刑事ノ裁判ニ羈束セラレサルヲ以テ原狀回復ノ訴ニ基キテ爲ス判決ハ新ナル刑事ノ判決ニ羈束セラルルコトナキヤ勿論ナリ

(六)　原告若クハ被告カ同一ノ事件ニ付テノ判決ニシテ前ニ確定ト爲リタルモノヲ發見シ其判決カ不服ヲ申立テラレタル判決ト牴觸スルトキ　即チ同一當事者間ノ同一事件ノ判決ニシテ其判決確定シタルコト且原狀回復ヲ求ムル判決ト牴觸シタル判決ヲ原狀回復ヲ求ムル判決ノ確定後ニ於テ發見シタル場合ナルコトヲ要ス

(七)　相手方若クハ第三者ノ所爲ニ依リテ前訴訟ニ於テ提出スルコトヲ得サリシ證書ニシテ原告若クハ被告ノ不利益ト爲ルヘキ裁判ヲ爲スニ至ラシムヘキ

モノヲ發見シタルトキ（公正證書ト私書證書トニ區別ナク其證書ニ因リテ當事者ノ一方カ不利益ト爲ルヘキ裁判ヲ爲スニ至ラシムヘキモノヲ發見シタルトキハ原狀回復ノ理由ト爲ルナリ然レトモ新事實ヲ證明シ之ニ因リテ利益ノ裁判ヲ受クルコトアルニ至ルモ再審ノ原因ト爲ルモノニ非ス

以上七ノ中第一乃至第四ノ場合ニ於テハ唯事實ノ存在スルコトヲ主張スルノ外其行爲ニ付テ確定判決アルカ又ハ證據欠缺以外ノ理由ニ因リテ刑事訴訟手續ノ開始若クハ實行ヲ爲シ得サルトキニ限リ原狀回復ノ訴ヲ許サル故ニ裁判官カ例ヘハ訴訟ニ關シテ當事者ノ一方ヨリ收賄ヲ爲シタルノミノ事實ニテハ原狀回復ノ理由ト爲スコトヲ得ス收賄罪ニ付テ確定判決ノ存スルカ又ハ證據不十分以外ノ理由即チ死亡、時效等ニ因リテ刑事ノ手續ヲ爲シ能ハサル事實ノ存在スルコトヲ必要トスルモノナリ

以上說明シタル原狀回復ノ訴ハ原告若クハ被告カ他ノ過失ニ非スシテ前訴訟手續ニ於テ故障又ハ控訴若クハ附帶控訴ニ依リテ原狀回復ノ理由ヲ主張シ能ハサリシ時ニ限リ之ヲ許ス（第四七〇條）故ニ上告ヲ以テ主張シ得ヘキトキニ於テハ必スシモ原狀回復ノ訴ヲ許サレサルモノニ非ス又控訴、故障等ニ於テ主張シ能ハサリシコト當事者ノ過失ニ基カサル場合ハ又原狀回復ノ訴ヲ許サナルモノナリ

第四章　再審ノ手續

第一　取消ノ訴及ヒ原狀回復ノ訴提起ノ方式其他ノ手續ニ付テハ其訴ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲スヘキ裁判所ノ訴訟手續ニ從フモノトス（第四七三條）故ニ區裁判所ニ訴ヲ提起スルニハ訴狀ヲ差出シ又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得ヘク合議裁判所ニ提起スルニハ訴狀ヲ差出スコトヲ要ス再審ノ訴ノ訴狀ニハ次ノ二箇ノ事項ヲ掲クルコトヲ要ス

(一)　取消又ハ原狀回復ノ訴ヲ受クル判決ノ表示

(二)　取消又ハ原狀回復ノ訴ヲ起ス旨ノ陳述

右ノ一ヲ缺クトキハ要件ヲ欠缺セルモノニシテ訴ノ提起ノ效力ヲ生セス右要件ノ外訴狀ハ準備書面ニ關スル一般ノ規定ニ從ヒテ之ヲ作リ準備的事項

トシテ確定シタル判決ニ對スル不服ノ理由ヲ表示シ其不服ノ理由竝ニ訴提起ノ不變期間ヲ遵守セルコトヲ明白ナラシムル事實ニ付テノ證據方法又如何ナル程度ニ於テ不服ヲ申立テラレタル判決ヲ廢棄若クハ破毀スヘキヤノ申立又本案ニ付キ更ニ如何ナル裁判ヲ爲スヘキヤノ申立ヲモ掲クヘシ(第四七五條)

右ノ如ク不服ノ理由即チ再審ヲ求ムルノ原因ハ準備的事項トシテ訴狀ニ記載スヘキモノナレハ之ヲ訴狀ニ掲ケサルモ訴提起ノ效力ニ關係ナシ隨テ不服ノ理由ハ再審ノ訴ノ口頭辯論ニ於テ訴狀ニ全ク記載セサルモノヲ主張スルコトヲ得ヘク且訴狀ニ記載セル事項ト異ナリタル新ナル理由ヲ主張スルコトヲ得ヘシ然レトモ取消ノ訴ヲ變更シテ原狀回復ノ訴ト爲シ若クハ原狀回復ノ訴ヲ變更シテ取消ノ訴ト爲スコトヲ得ス此等ノ事項ハ訴狀ノ要件ニシテ之ヲ變更スルトキハ適法ナル訴ノ提起ナキモノト謂フヲ得ヘケレハナリ

第二　再審ノ訴ハ一箇月ノ不變期間内ニ之ヲ起スコトヲ原則トス(第四七四條第一項)此期間ハ取消ノ訴ニ於ケル原告若クハ被告カ法律ノ規定ニ從ヒテ代理セラレサリシコトヲ理由トスル場合ヲ除キ其他ノ場合ニ於テハ原告若クハ被告ハ不服ノ理由ヲ知リタル日ヲ以テ始マル若シ判決ノ確定前ニ不服ノ理由ヲ知リタルトキハ判決ノ確定ヲ以テ始マル(第四七四條第二項)然レトモ判決ノ確定前ニ第四百六十八條第一項第四號ノ場合以外ノ再審ノ理由アルコトヲ知リタルトキハ第四百六十八條第二項、第四百七十條ノ規定ニ從ヒ再審ヲ求ムル訴ヲ提起スルコト能ハサル場合アルヘシ

判決ノ確定ヨリ起算シテ五箇年ノ滿了後ニ於テハ再審ノ訴ノ提起ヲ爲スコトヲ得ス(第四七四條第三項)

訴訟手續ニ於テ原告若クハ被告カ法律ノ規定ニ從ヒ代理セラレサルコトヲ理由トシテ取消ノ訴ヲ提起スルニハ原告若クハ被告又ハ其法定代理人カ送達ニ因リ判決アリタルコトヲ知リタル日ヨリ起算シテ一箇月ノ不變期間内ニ限リ訴ヲ起スコトヲ得ヘシ隨テ不服ノ理由ヲ知リタルコトカ判決確定後五年ヲ經過シタル後ト雖モ仍ホ一箇月ノ不變期間内ニ訴ヲ起スコトヲ得ヘク又不服ノ理由ヲ判決ノ送達以前ニ知リタル場合ト雖モ判決送達マテハ不變期間ノ進行ヲ始ムルコトナシ判決ノ確定前判決ノ送達ニ因リテ再審ノ理由ヲ知リタルト

キハ不變期間ハ判決ノ確定ヲ以テ始マル(第四七四條第四項)

第三　同一ノ判決ニ對シテ取消ノ訴ノ理由ト原狀回復ノ訴ノ理由併存スル場合ニ於テハ當事者ノ一方又ハ雙方ヨリ二箇ノ訴ヲ同時ニ提起スルコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ當事者ノ一方ヨリ二箇ノ訴ヲ提起シタルト或ハ雙方ヨリ二箇ノ訴ヲ提起シタルトヲ問ハス裁判所ハ職權ヲ以テ原狀回復ニ付テノ辯論及ヒ裁判ハ取消ノ訴ニ付テノ裁判確定スルニ至ルマテ之ヲ中止スヘキモノナリ何トナレハ取消ノ訴ハ訴訟手續ニ關スルモノナレハ訴訟手續ニ違背アルトキハ判決ノ實體上ノ理由如何ニ關セス其判決ハ不適法ノモノナレハ實體上ノ理由ヲ審査スルヲ要セス取消ノ訴ニ因リテ原判決ハ廢棄セラルルニ至ルヲ以テ原狀回復ノ訴ハ自ラ目的ヲ失フニ至ルヘキヲ以テナリ(第四六七條第二項)

第四　再審ヲ求ムル訴ノ提起アリタルトキハ裁判長ハ其訴ノ適法ナリヤ否ヤヲ審査シ判然許スヘカラサル訴又ハ判然法律上ノ方式ニ適セス又ハ期間ノ經過後ニ起シタル訴ハ命令ヲ以テ却下シ此却下ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘシ(第四七六條)此裁判長ノ審査權ハ通常訴訟ニ於テハ大審院ノ判決ニ於テハ大審院自ラ審査スヘキモノナレトモ再審ノ場合ニ於テハ縱令大審院ノ判決ニ對シテ求ムル場合ニ於テモ亦裁判長カ之ヲ審査スルモノナリ

第五　裁判長カ訴ヲ適法ト認メタルトキハ口頭辯論ノ期日ヲ定メ當事者雙方ヲ呼出スヘキモノナリ此期日ニ於テハ再審ヲ求ムル訴ノ原告ハ相手方ノ出頭シタルト否トニ關セス相手方カ陳述ヲ爲シタルト否トニ關セス再審ヲ求ムル理由及ヒ法律上ノ期間ノ遵守ヲ明白ニスル事實ヲ疏明セサルヘカラス(第四七七條)

第六　裁判所カ訴ヲ審理シテ許スヘカラサル訴又ハ法律ノ方式ニ適セス若クハ期間經過後ニ起シタル訴ハ職權ヲ以テ判決ニ因リ不適法トシテ棄却スヘシ法律上ノ期間ノ遵守ヲ明白ニスル事實ヲ疏明セサル場合モ亦同シ(第四七八條)

第七　裁判所ハ本案ニ付テノ辯論前ニ再審ヲ求ムル理由及ヒ再審ノ訴ノ許否ニ付テ先ツ辯論、裁判ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ再審ノ許否ニ付キ先ツ判決ヲ爲ス而シテ中間判決ヲ爲シタル場合ニ於テハ本案ニ付テノ辯論ハ再審ヲ求ムル理由及ヒ許否ニ付テノ辯論ノ續行ト看做サルルモノトス(第四七九條第

二項)
本案ニ付テノ辯論及ヒ裁判ハ當事者ノ不服申立ノ理由存スル部分即チ不服申立ノ範圍內ニ於テ更ニ本案ニ付テノ辯論及ヒ裁判ヲ爲スヘク(第四七九條第一項)而シテ原判決ヲ變更シテ原告ノ不利益ト爲ルコトハ相手方カ再審ヲ求ムル訴ヲ起シ變更ヲ申立テタルトキニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス(第四八〇條)
第八　訴カ上告裁判所ノ管轄ニ屬スルトキハ訴ノ提起カ法定ノ期間ヲ遵守シタルモノナルコト及ヒ再審ヲ求ムル理由ノ存否即チ再審ヲ求ムル理由及ヒ其許否ニ關シ事實ノ確定及ヒ斟酌ヲ必要トスル場合ト雖モ上告裁判所ハ自ラ此等ノ事實ニ付テハ審査ヲ爲シテ判決スヘキモノナリ(第四八一條)
第九　再審ノ判決ニ對スル上訴ハ前訴ニ付キ裁判ヲ爲シタル裁判所ノ判決ニ對シ一般ニ爲スコトヲ得ヘキトキニ限リ上訴ヲ提起スルコトヲ得(第四八二條)

第五章　準再審

再審ヲ求ムル訴ハ前訴訟ニ於ケル當事者カ確定判決ノ廢棄ヲ目的トスルモノナレトモ民事訴訟法ハ他人間ノ訴訟ニ於ケル確定判決ヲ第三者ヲシテ廢棄セシムル方法ヲ設ク即チ第三者カ原告及ヒ被告ノ共謀ニ因リ第三者ノ債權ヲ詐害スルノ目的ヲ以テ判決ヲ爲サシメタリト主張シ其判決ニ對シテ取消ヲ求ムルコトヲ得ルモノナリ此場合ニ於テハ原告及ヒ被告ヲ共同被告トシテ訴ヘ原狀回復ノ訴ニ因レル再審ノ規定準用セラルルモノナリ(第四八三條)他人間ノ判決ノ效力ヲ消滅セシムル必要カ其事件ニ付テ終局判決ノ存スル前ニ生シタルトキト雖モ確定判決後ニ於テハ再審ノ裁判ニ依リテ其判決ノ廢棄ヲ求ムルコトヲ得ヘシ唯第一審ノ判決アリタル後控訴ノ提起前若クハ控訴判決後上告提起以前ニ於テハ主參加ノ訴ヲ爲スコトヲ得サレハ判決ノ確定ヲ待チテ再審ヲ求ムルノ外ナシ

第三編　證書訴訟及ヒ爲替訴訟

一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ受クル權利ヲ有スル者ニシテ其債權ヲ證明スル證書ヲ所持スル者ニ對シテハ債務者

ハ其證書ノ返還ヲ受クルカ若クハ受取證ノ交付ヲ受ケサルトキハ其債務ヲ履行セサルコト通常ナリ故ニ債權者カ證書ヲ所持シ且債務者カ自己ノ手ニ存スル證書ヲ以テ其債權ノ消滅ヲ立證スル能ハサル場合ニ於テハ債權者ナリト主張スル者ノ債權ハ仍ホ存在シ債務者カ其請求ハ既ニ消滅シタリト主張スル抗辯ハ自己ノ債務履行ヲ遲延セシメントスル故意ニ出ツルモノト推定スルコトヲ得ヘシ此ノ如キ場合ニ於テ反對ノ事實ヲ即時ニ立證セサル債務者ノ抗辯ヲ排斥シ債權者ヲシテ其權利ノ實行ヲ速ナラシムルノ途ヲ設クルハ私權保護ニ付キ極メテ必要ナリ證書訴訟、爲替訴訟ハ此目的ノ爲メニ設ケタル訴訟手續ニシテ即チ證書ニ依リテ自己ノ權利ヲ證明シ得ヘキ債權者ヲシテ容易ニ且迅速ニ債務名義ヲ得セシムルヲ目的トスル一ノ特別訴訟手續ナリ故ニ此手續タルヤ簡易ト迅速トヲ主トシ立證方法モ證書ノミニ限ラレ其判決ニ對シテハ裁判所カ職權ヲ以テ假執行ノ宣言ヲ付スヘキモノナリ

第一章　證書訴訟

第一　條件　證書訴訟ノ提起ニ付テハ次ノ條件ヲ必要トス

(一)　一定ノ金錢ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ナルコト　故ニ不動產ニ關スル訴訟、法律關係ノ發生變更ヲ目的トスル訴若クハ確認ノ訴訟ノ如キハ證書訴訟ニ依リテ提起スルコトヲ得ス之ヲ起スコトヲ得ルモノハ給付ノ訴ニ限リ且其給付ノ目的ハ金錢、代替物等ナルコトヲ必要トス（第四八四條）

(二)　請求ヲ起スノ理由タル總テノ必要ナル事實ヲ證書ニ依リ證明シ得ヘキコト請求ヲ起スニ必要ナル事實トハ訴ノ原因タル事實ナリ故ニ主タル請求ハ勿論附帶ノ請求ニ付テモ證書ニ依リ證明シ得ヘキモノナラサルヘカラス訴訟條件ニ關スル事實例ヘハ訴訟能力、法定代理人ノ資格ノ證明、裁判所ノ管轄ヲ定ムル事實ハ請求ノ本案ニ關係ナキモノナルヲ以テ此ニ所謂請求ヲ起スノ理由タル必要ナル事實ニ屬セサルナリ

第二　訴提起ノ方式　訴ノ提起ハ合議裁判所ニ於テハ書面ヲ以テシ區裁判所ニ於テハ口頭若クハ書面ヲ以テ提起シ得ヘシ而シテ訴狀ニハ證書訴訟トシテ

訴フル旨ノ陳述ヲ揭ケ且請求ヲ起スノ理由タル總テノ事實ヲ證明スヘキ證書ノ原本若クハ謄本ヲ訴狀ニ添附スルコトヲ要ス若シ訴狀ニ證書訴訟トシテ訴フル旨ノ陳述ヲ揭ケサルトキハ證書訴訟トシテハ訴ノ提起ハ無效ナリト雖モ通常訴訟トシテ訴提起ノ效力アルモノトス何トナレハ訴狀ニ依レハ通常訴訟トシテ訴ヲ提起シタリト看做スヘキモノナレハナリ又證書訴訟トシテ訴フル旨ノ陳述ヲ揭ケタルニ拘ハラス請求ヲ爲スノ理由タル事實ヲ證スヘキ證書ノ原本又ハ謄本ヲ訴狀ニ添附セサルトキハ訴提起ノ要件ヲ欠缺セル不適法ノモノト爲サヽルヘカラス故ニ裁判所ハ證書訴訟トシテハ訴提起ノ條件ヲ欠缺セルモノトシテ之ヲ却下スヘキナリ然レトモ訴狀ニ添附シタル證書ノ原本若クハ謄本カ果シテ原告ノ主張スル請求ノ原因タル事實ヲ證明スルニ足ルヤ否ヤハ訴提起ノ效力ニ關係ナキモノナリ故ニ原告カ貸金ノ請求ヲ爲サントスルニ當リ其事實ヲ證明スヘキ證書トシテ訴狀ニ預金ノ證書ヲ添附スルモ起訴ノ要件ヲ欠缺シタリト謂フ能ハス要スルニ原告カ訴ノ原因タル事實ノ證明トシテ證書ノ添附ヲ爲シタルトキハ其證書ノ證據力如何ニ關セス訴ノ提起ハ適法ノモノタラサルヘカラス而シテ訴狀ニ證書訴訟トシテ訴フル旨ノ陳述ヲ揭ケ之ニ證書ノ原本、謄本ヲ添附セス口頭辯論ノ期日以前ニ於テ證書ノ原本、謄本ノミヲ裁判所ニ差出シ之ヲ被告ニ送達シタルトキハ訴訟ノ要件ニ欠缺アル訴狀ヲ差出シタル後更ニ欠缺シタル條件ノミヲ補正シタル書面ヲ被告ニ送達シタル場合ト同シク完全ナル證書訴訟トシテ訴ノ提起アリタリト謂フコトヲ得サルナリ（第四八五條）

第三　審理手續　訴訟手續ノ進行ニ付テハ次ニ述フル數種ノ例外アルノミニシテ其他ハ總テ普通訴訟手續ト同一ナリ

（一）證書訴訟手續ニ付テハ妨訴抗辯ノ中訴訟費用保證欠缺ノ抗辯ハ之ヲ提出スルコトヲ許サス其他ノ妨訴抗辯ハ一般ノ法則ニ從ヒ提出スルコトヲ得ト雖モ被告ハ其抗辯ニ因リテ本案ノ辯論ヲ拒ムコトヲ得ス但裁判所カ職權ヲ以テ若クハ當事者ノ申立ニ因リテ辯論ノ分離ヲ命スルコトヲ得ルモノナリ（第四八六條）

（二）訴訟手續ヲ簡易ナラシムル爲メニ反訴ノ提起ヲ許サス若シ反訴ヲ提起シ

タルトキハ不適法トシテ判決ヲ以テ却下スヘキモノナリ(第四八七條第一項)

(三)證據方法ハ書證ニ限リ當事者ニ於テ使用スルコトヲ得ルモノナリ即チ請求ノ原因タルト實體上ノ請求ノ原因以外ノ事實タルト其他證書ノ眞否ニ付テ爭アル場合ニ於テモ書證ノミヲ以テ證據方法ト爲スヘキモノナリ故ニ人證、鑑定等ノ證據方法ハ之ヲ許サス而シテ書證ノ申出ハ證書ノ提出ノミヲ以テ爲スコトヲ得ルモノニシテ書類ノ取寄、證書提出ヲ命スル宣言等ハ之ヲ許サス(第四八七條第二項、第三項)

(四)原告ハ口頭辯論ノ終結マテハ被告ノ承諾ヲ要セスシテ單獨ノ意思表示ニ因リ即チ準備書面ニ依リ又ハ口頭辯論ニ於ケル陳述ニ依リ證書訴訟ヲ止メテ通常訴訟手續ヲ以テ訴訟ヲ繫屬セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ證書訴訟ヲ取下ケタルモノニ非スシテ證書訴訟ヲ以テ進行シタル訴訟行爲ハ其後通常訴訟手續ニ於テ總テ效力ヲ有スルモノナリ控訴審ニ於テハ證書訴訟手續ヲ通常訴訟手續ニ變更スルコトヲ得ス(第四八八條)

第四　判決　證書訴訟ニ於テ原告ニ敗訴ヲ言渡ス判決ハ實體上及ヒ形式上ノ二ニ區別スルコトヲ得即チ左ノ如シ

(一)實體上原告ノ敗訴ヲ言渡ス判決ハ次ノ場合トス

(イ)原告ノ請求カ自體ニ於テ理由ナシト見エタルトキ

(ロ)被告ノ抗辯ニ因リ原告ノ請求カ理由ナシト見エ又ハ被告カ證書訴訟ニ於テ許スヘキ證據方法ニ依リ原告ノ請求ノ不當ナルコトヲ立證シタルトキ

(ハ)原告カ請求ヲ抛棄シ被告ヨリ抛棄判決ノ申立ヲ爲シタルトキ

(ニ)原告カ口頭辯論期日ニ闕席シ被告カ闕席判決ノ申立ヲ爲シタルトキ

右ノ四ノ場合ニ言渡ス判決ハ原告ノ主張シタル請求カ實體上不當ナリトスル判決ニシテ通常訴訟ニ於テ本案ニ付キ敗訴ヲ言渡ス判決ト同一ナリ故ニ其判決確定スルトキハ既判力ノ抗辯ノ基礎ト爲ル

(二)形式上原告ノ敗訴ヲ言渡ス場合ハ左ノ如シ

(イ)一般ノ訴訟條件ニ欠缺アリタルトキ

(ロ)訴狀ニ證書訴訟トシテ訴フル旨ヲ掲ケタルニ拘ハラス證書ノ原本又ハ謄本ヲ訴狀ニ添附セサルトキ

(ハ) 證書訴訟ノ條件ニ欠缺アルトキ即チ請求ノ目的物カ第四百八十四條ノ要件ニ適セス又請求ヲ起スノ理由タル事實ニ付キ完全ニ書證ノ申出ヲ爲サヽルトキ

(ニ) 被告ノ抗辯ニ因リ原告ニ於テ抗辯ヲ正當ト認メシムルカ爲メ請求ノ原因以外ノ事實ニ付キ證明ヲ必要トスルニ拘ハラス書證ノ申出ヲ爲サヽリシトキ

右ノ四ノ場合ニハ原告ノ訴ヲ却下スヘキモノナリ殊ニ(ロ)以下ノ場合ニハ證書訴訟手續ニ於テ不適法トシテ訴ヲ却下スルモノナリ故ニ此等ノ判決ハ形式的確定力ヲ生スルモ實體的ノ確定力ヲ生スルモノニ非ス而シテ此等ノ事項ハ裁判所カ口頭辯論ニ於テ職權ヲ以テ調査スヘキモノニ屬シ(ロ)(ハ)ノ條件カ欠缺セシ場合ニハ被告カ口頭辯論期日ニ闕席セシトキト雖モ原告ノ訴ヲ許サヽルモノトシテ却下スヘク(ニ)ノ場合ニハ被告カ口頭辯論ニ於テ原告ノ請求ヲ爭ヒタルトキニ限リ生スルモノナリ即チ證書訴訟ニ於テハ請求ノ原因タル事實ハ被告カ之ヲ爭フト否トニ拘ハラス原告ハ之ヲ證明スヘキ責任ヲ有スルモノニシテ若シ之カ證明ヲ爲スコト能ハサル場合ニハ原告ノ訴ハ證書訴訟ニ於テ許スヘカラサルモノトシテ却下スヘキモノナリ(第四八九條)

被告ニ敗訴ノ言渡ヲ爲ス判決ハ被告カ原告ノ請求ニ付キ異議ヲ述ヘサル場合ト原告ノ請求ヲ爭ヒタル場合トノ二ニシテ次ノ如シ

(一) 被告カ原告ノ請求ヲ爭ハサル場合ハ被告カ原告ノ請求ヲ認諾シ原告カ認諾判決ノ申立ヲ爲シタルトキ或ハ被告カ口頭辯論期日ニ闕席スルカ若クハ出頭スルモ辯論ヲ爲サヽル場合ニ於テ原告カ闕席判決ノ申立ヲ爲シタルトキ被告ニ敗訴ヲ言渡スヘキモノナリ此場合ニ於テモ認諾ノ場合ヲ除キ原告ハ自己ノ請求ヲ理由アリト認メシムルカ爲メ證據方法ノ申出ヲ爲サヽルヘカラス

(二) 被告カ原告ノ請求ヲ爭ヒタル場合ト雖モ原告ノ請求カ證明セラレテ被告カ適法ノ證據方法ヲ以テ其抗辯ノ方法ヲ立證セサル以上ハ被告ノ異議ハ證書訴訟ニ於テ許サヽルモノトシテ排斥スヘク(第四九〇條)被告ニ敗訴ノ判決ヲ言渡スヘキモノナリ而シテ原告ノ請求ヲ爭ヒタル被告ニ對シテハ敗訴ヲ言渡スヘキ總テノ場合ニ於テ被告ニ對シ後日通常訴訟ニ依リテ原告ノ請求ヲ爭フ權

利ノ行使ヲ留保スヘキモノナリ而シテ其留保ハ判決主文ニ掲クヘキモノトス(第四九一條第一項)被告ニ對シテ權利ノ行使ヲ留保スル所以ハ原告カ證書訴訟ノ形式ヲ以テ訴ヲ提起シタルトキハ被告ハ之ヲ通常訴訟手續ニ變更ヲ求ムル權利ナク隨テ被告ハ原告ノ爲メニ原告ノ攻擊ニ對スル防禦方法ヲ制限セラレ十分ナル防禦ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テ被告ニ對シテ後日防禦ヲ爲シ得ルノ機會ヲ與フルノ途ヲ得セシムルノ必要ニ基ク是ヲ以テ總テノ場合ニ於テ留保判決ヲ爲スヘキモノナリ留保ヲ掲ケタル判決ハ上訴及ヒ强制執行ニ關シテハ終局判決ト看做シ(第四九一條第二項)其判決確定スルトキハ訴訟ハ通常訴訟手續ニ於テ其裁判所ニ繫屬スルモノナリ(第四九二條第一項)故ニ判決確定ノ後當事者ノ申立ニ因リテ通常訴訟手續ヲ以テ訴訟ヲ進行ス此手續ニ於テハ更ニ原告ノ請求ノ當否ヲ審理スヘキモノニシテ證書訴訟ニ於ケル各當事者ノ行爲ハ此手續ニ於テモ又其效力ヲ有ス此手續ニ於テ審理ノ結果原告ノ請求理由ナカリシコト表ハレタルトキハ終局判決ヲ以テ原判決ヲ廢棄シ原告ノ請求ヲ排斥シ且生シタル費用ノ全部又ハ一部ノ辨償ヲ言渡シ又前判決ニ基キ被告ヨリ支拂又ハ給付シタル物ノ辨濟ヲ被告ノ申立ニ因リ原告ニ對シテ言渡スヘキモノナリ之ニ反シテ原告ノ請求ヲ正當ト認ムルトキハ前判決ヲ維持シ被告ニ訴訟費用ヲ負擔セシムルモノナリ此通常訴訟手續ニ於テ原告若クハ被告カ闕席セルトキハ闕席判決ニ關スル規定ヲ準用シテ闕席判決ヲ爲ス(第四九二條第二項、第三項)茲ニ闕席判決ヲ爲ス旨ノ規定ヲ設ケタルハ若シ當事者カ闕席セシトキハ前訴訟手續ニ於テ爲シタル行爲及ヒ判決等ハ效力ヲ失ヒ出頭シタル當事者ノ申立ニ因リ通常ノ規定ニ從ヒ闕席判決ヲ爲スヘキコトヲ明カニシタルニ外ナラス證書訴訟ノ判決ニ於テ被告ニ敗訴ヲ言渡ス場合ニ留保ヲ掲ケサルトキハ第二百四十二條ノ規定ニ從ヒ判決ノ補充ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ(第四九一條第二項)證書訴訟ニ於テ留保判決ヲ爲スヲ以テ證書訴訟手續ニ於ケル控訴審ニ於テモ被告ニ防禦權留保ノ規定即チ第四百二十六條、第四百二十七條ハ適用セラレサルナリ

第二章　爲替訴訟

爲替訴訟ハ商法ニ規定スル手形ニ基ク請求ヲ證書訴訟手續ヲ以テ主張スル手續ナリ此手續ハ次ニ述フル場合ノ外總テ證書訴訟手續ト同一ナリ

第一　商法ニ規定スル手形ニ基ク請求ニ限ルコト

第二　手形金支拂地ノ裁判所又ハ被告カ其通常裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所又ハ數人カ手形義務者トシテ共同被告ト爲ル場合ニハ支拂地ノ裁判所若クハ被告ノ各人カ其普通裁判籍ヲ有スル地ノ裁判所各管轄權ヲ有ス（第四九五條第一項第二項）

第三　訴狀ニハ爲替訴訟トシテ訴フル旨ヲ掲ケ（第四九六條第一項）且證書訴訟手續ノ如ク手形ノ原本若クハ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第四　訴カ適法ナルトキハ訴狀送達ト口頭辯論トノ期日トノ間ニハ少クトモ二十四時間以上ノ時間ヲ存シ裁判長ハ口頭辯論期日ヲ指定ス（第四九六條第二項第三項）

右ノ如ク爲替訴訟手續ニ特例ヲ設クルハ手形ハ其權利ヲ容易ニ且迅速ニ實行スルヲ目的トスルモノナレハ手形債權者ヲシテ容易ニ執行名義ヲ得セシメントスルノ主旨ニ外ナラサルナリ

民事訴訟法（自第三編至第五編）終

（三十五年度講義錄）

法學士 岩田一郎講述

民事訴訟法

自第三編
至第五編

和佛法律學校發行

民事訴訟法（自第三編至第五編）目次

第一編　上訴……一

緒論……一

第一章　控訴……八

第一節　控訴ノ性質……八

第二節　控訴提起ノ條件……一二

第三節　控訴權ノ行使……三三

第四節　控訴ノ内容……五〇

第五節　控訴ノ效力……六九

第一款　停止ノ效力……六九

第二款　移審ノ效力……七四

第六節　控訴審ノ手續……九二

第二章　上告……一〇五

第一節　上告ノ性質……一〇五
第二節　上告提起ノ條件……一〇六
第三節　上告權ノ行使……一一五
第四節　上告ノ內容……一一六
第五節　上告ノ效力……一一九
第六節　上告審ノ手續……一二三
第三章　抗告……一二七
第一節　抗告ノ性質……一二七
第二節　抗告ノ種類……一三二
第三節　抗告提起ノ條件……一三六
第四節　抗告權ノ行使……一四五
第五節　抗告ノ內容……一四六
第六節　抗告ノ效力……一四八
第七節　抗告審ノ手續……一五〇
第二編　再審……一五三
第一章　總說……一五三
第二章　取消ノ訴……一五九
第三章　原狀回復ノ訴……一六一
第四章　再審ノ手續……一六五
第五章　準再審……一七〇
第三編　證書訴訟及ヒ爲替訴訟……一七一
第一章　證書訴訟……一七二
第二章　爲替訴訟……一八一

民事訴訟法（自第三編至第五編）目次終

雜報

○他家ニ在ル法定ノ推定家督相續人　法定ノ推定家督相續人ハ本家相續ノ必要アル場合ノ外他家ニ入リ又ハ一家ヲ創立スルコトヲ得サルモノトス（民法第七四四條）然ルニ廢嫡ノ手續ヲ爲サスシテ分家ヲ爲シタルトキハ他家ニ在リテ仍ホ從來ノ推定家督相續人タル資格ヲ有スルカ否一家ノ戶主ニシテ同時ニ他家ノ家督相續人タルカ如キハ少クトモ新民法ノ下ニ於テハ認ムヘカラサル事ニ屬ス然ラハ斯ル場合ニ於テハ孰レヲ以テ有效トスヘキカ我大審院ハ民法施行前ニ於ケル右ノ如キ事實ニ對シ判決ヲ與ヘテ曰ク「法定ノ推定家督相續人ヲ分家セシムルニハ先ツ廢嫡ノ手續ヲ爲スカ又ハ遲クトモ分家ト同時ニ其手續ヲ爲サヽルヘカラサルコト論ヲ俟タス而シテ廢嫡ノ手續ヲ了シタルヤ否ヤハ單ニ分家シタリトノ事實ノミニ依リ之ヲ推定スルヲ得ス必スヤ他ノ證據ニ由リテ之ヲ判斷セサルヘカラス何トナレハ分家ト廢嫡トハ別箇ノ事柄ナレハ分家ニハ當然廢嫡ヲ包含セサルノミナラス從來或ハ廢嫡ノ手續ヲ了セスシテ

分家ノ手續ヲ爲スカ如キ場合絶ヘテ之レナキヲ保シ難ケレハナリ」ト（大審院明治三十四年（オ）第五百十二號不動産讓與登記取消請求事件明治三十五年四月三十日民事聯合部判決）

○山田講師ノ榮典　本校國際私法擔任講師山田三良氏ハ東京帝國大學總長ノ推薦ニ基キ去ル七月九日法學博士ノ學位ヲ授與セラレタリ

○卒業試驗問題　去ル六月二十三日ヨリ七月四日マテ執行シタル卒業試驗ノ問題左ノ如シ

民事訴訟法（自第六編至第八編）　（松岡學士）

一　上告裁判所ハ申立ニ因リ假執行ノ宣言ヲ爲スコトヲ得ルヤ

二　執行力アル正本ノ付與ニ關スル裁判長ノ命令ノ性質ヲ略述スヘシ

民法物權（自第七章至第十章）　（富井博士）

一　留置權者ニ於テ留置物ヲ競賣ニ附スルコトノ利益ナル場合ト其不利ナル場合トヲ分示スヘシ

二　十年ヲ辨濟期トスル債權ニ付キ不動産質ヲ設定シタル場合ニ於テ十一年ヲ經過シタル後ニ其債權ヲ實行スルコトヲ得ルヤ

國際私法　（山田博士）

一　二箇以上ノ國籍ヲ有スル當事者ニ付テハ何ニ依リテ其本國法ヲ定ムヘキヤ

二　法律行爲ノ方式ハ何レノ法律ニ依ルヘキモノナリヤ

行政法　（岡學士）

一　地方分權ト地方自治トノ關係ヲ論ス

二　巡査ノ拔劍及ヒ憲兵ノ兵器使用ヲ論ス

三　法律カ地方長官ニ限リ與ヘタル權限ニ依リ地方長官カ處分ヲ爲シタル場合ニ於テ主任大臣ハ其處分カ公益ヲ害シ又ハ法規ニ違背スト認ムルトキハ官制ニ依ル權限ヲ以テ之カ取消ヲ命シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得ルヤ

商法海商　（内田學士）

一　船長ハ積荷ヲ賣却スルコトヲ得ルヤ
此場合ニ於ケル運送賃ノ割合ハ如何

二　船荷證券ノ性質及效用ヲ述フヘシ

民法親族　（鶴學士）

一　親權者ハ子ノ財産ニ付有給ノ管理者ヲ使用スルヲ得ヘキヤ如何

二　戸主カ法律上家族ノ後見人タルヘキ場合ニ於テ無能力者ナルトキハ如何ニスヘキヤ

民事訴訟法（自第三編至第五編）　（岩田學士）

一　控訴裁判所カ差戻判決ヲ爲ス場合如何

二　取消ノ訴ト原狀回復ノ訴トノ區別ヲ說明スヘシ

民法相續　（掛下學士）

一　戸主ニ一女ノミアリ之ニ壻養子（甲）ヲ爲シタル後ニ至リ男子（乙）出生シタリ其後相續開始シタルトキハ相續權ハ甲乙孰レニ在リヤ

二　遺贈（遺言ノ方式ハ完全ナルモノト假定シ）ハ如何ナル場合ニ於テ效力ヲ生セサルカ

商法手形　（志田學士）

一　手形ト其證劵ニ表彰セラルル權利トノ關係ヲ說明スヘシ

二　支拂拒絕證書ノ作成ヲ免除シタル者ハ其作成ナクシテ償還ヲ爲シタル後更ニ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルヤ

破產法　（松岡學士）

一　破產ノ目的ヲ說明スヘシ

二　破產手續ノ終結マテニ未タ終局セサリシ別除權ニ關スル訴訟ハ如何ナル手續ニ依リテ終局スヘキモノナルヤ

擬律　（吾孫子學士）

甲者アリ適法ニ成立スル乙ナル富籤販賣會社ヘ第一九〇二號ノ籤ヲ注文シタルニ雙方共第一九二〇號ノ籤ナルコトニ心附カスシテ之ヲ賣買シタリ然ルニ右第一九二〇號ニ巨額ノ利益ノ落ツルコトトナリタル場合ニ於テ乙ハ目的物ニ錯誤アルニ因リ先ノ契約ハ無效ナリトシテ其利益ヲ請求シタルトキハ如何ニ判決スヘキヤ又タ第一九二〇號カ毫モ利益ヲ得サル空籤ニシテ第一九〇二號ニ利益ノ落チタリトセハ甲ハ其利益ヲ請求シ得ヘキヤ

（注意）校外生月謝納付ノ際ハ必ス本紙ヲ切抜キ宿所、氏名及會員番號、金額（第二學年期）月謝ノ月別若クハ何月分ヨリ何月分迄ト記入シ爲替券ニ添附スルモノトス

納付書

會員番號（　　　）

一金

但第　學年　　月分月謝

右納付候也

氏名

明治三十五年　月　日

和佛法律學校會計局御中

納付書

會員番號（　　　）

一金

但第　學年　　月分月謝

右納付候也

氏名

明治三十五年　月　日

和佛法律學校會計局御中

二　取消ノ訴ト原狀回復ノ訴トノ區別ヲ説明スヘシ

民法相續　（掛下學士）

一　戸主ニ一女ノミアリ之ニ壻養子（甲）ヲ爲シタル後ニ至リ男子（乙）出生シタリ其後相續開始シタルトキハ相續權ハ甲乙孰レニ在リヤ

二　遺贈（遺言ノ方式ハ完全ナルモノト假定シ）ハ如何ナル場合ニ於テ效力ヲ生セサルカ

商法手形　（志田學士）

一　手形ト其證券ニ表彰セラルル權利トノ關係ヲ説明スヘシ

二　支拂拒絶證書ノ作成ヲ免除シタル者ハ其作成ナクシテ償還ヲ爲シタル後更ニ其前者ニ對シテ償還ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルヤ

破產法　（松岡學士）

一　破產ノ目的ヲ説明スヘシ

二　破產手續ノ終結マテニ未タ終局セサリシ別除權ニ關スル訴訟ハ如何ナル手續ニ依リテ終局スヘキモノナルヤ

擬律　（吾孫子學士）

甲者アリ適法ニ成立スル乙ナル富籤賭賣會社ヘ第一九〇二號ノ籤ヲ注文シタルニ雙方共第一九二〇號ノ籤ナルコトニ心附カスシテ之ヲ賣買シタリ然ルニ右第一九二〇號ニ巨額ノ利益ノ落ツルコトトナリタル場合ニ於テ乙ハ目的物ニ錯誤アルニ因リ先ノ契約ハ無效ナリトシテ其利益ヲ請求シタルトキハ如何ニ判決スヘキヤ又ハ第一九二〇號カ毫モ利益ヲ得サル空籤ニシテ第一九〇二號ニ利益ノ落チタリトセハ甲ハ其利益ヲ請求シ得ヘキヤ

（注意）校外生月謝納付ノ際ハ必ス本紙ヲ切拔キ居所、氏名及爲替番號、金額、並ニ學年別、月謝ノ月別若クハ何月分ヨリ何月分迄ト記入シ爲替券ニ添附スルモノトス

納付書

爲替番號（　　　）

一金

但第　學年　　月分月謝

右納付候也

居所

明治三十五年　月　日

和佛法律學校會計局御中

納付書

爲替番號（　　　）

一金

但第　學年　　月分月謝

右納付候也

居所

明治三十五年　月　日

和佛法律學校會計局御中

校外生規則摘要

一　講義錄ヲ分チテ第一學年、第二學年、第三學年ノ三部トス

一　講義錄ノ掲載科目左ノ如シ

第一學年　法學通論、憲法、民法（第一編及ヒ第二編第六章マテ）、刑法（總論）、國際公法、經濟學

第二學年　民法（第三編）、商法（第一回、第二編、第三編）刑法（各論）、民事訴訟法（第一編、第二編）、刑事訴訟法、財政學

第三學年　民法（第二編第七章以下、第四編、第五編）、商法（第四編、第五編）、民事訴訟法（第三編以下）、破産法、行政法、國際私法

一　講義錄ハ毎月六回左ノ期日ニ發行ス

第一學年	五日	二十日	
第二學年	十日	廿五日	
第三學年	十五日	三十日（但二月ニ限リ末日）	

一　校外生ハ何時ニテモ入學スルコトヲ得

一　月謝金左ノ如シ

第一學年	金三十錢	第二學年	金四十錢
第三學年	金五十錢	全學年	金一圓

一　月謝ハ郵便爲替、銀行小切手、通運早達便ヲ以テ東京市麹町區富士見町六丁目十六番地和佛法律學校會計局宛ニテ送付スヘシ

明治二十二年十二月九日內務省許可
明治三十四年十一月十四日第三種郵便物認可

明治三十五年七月十四日印刷
明治三十五年七月十五日發行
（定價金參拾錢）

編纂兼發行者　東京市牛込區東榎町十七番地　櫻田久次郎

印刷者　東京市牛込區矢來町三番地　小宮山信好

印刷所　東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地　金子活版所

發行所　東京市麹町區富士見町六丁目十六番地　司法省指定　和佛法律學校
（電話番町百七十四番）